

**大分市民の「食」に関する意識調査**

**報 告 書**

平成29年3月



# 目 次

I 調査概要	1
II 調査結果	2
1 回答者属性（問1～問3）	2
2 食育への関心度について	4
（1）食育への関心度（問4）	4
（2）関心がある理由（問4-1）	6
3 朝食の摂取状況	8
（1）朝食摂取頻度（問5）	8
（2）朝食を食べない理由（問5-1 ①）	10
（3）朝食を食べない習慣になった時期（問5-1 ②）	12
4 家族一緒の食事（問6）	14
5 仲間や友人との食事会等について	16
（1）仲間や友人との食事会等への参加意向（問7）	16
（2）仲間や友人との食事会等への参加条件（問7-1）	18
6 生活習慣病予防のために取り組んでいること（問8）	20
7 健康な食生活の実践について	22
（1）実践状況（問9）	22
（2）参考にしているもの（問9-1）	24
8 噛むことの効果について（問10）	26
9 食の安全性について	28
（1）食の安全性についての関心度（問11）	28
（2）食の安全性についての関心事（問11-1）	30
10 知っていること（問12）	32
11 食中毒の予防のためにやっていること（問13）	34
12 食中毒を予防するために食べないようにしている食事（問14）	36
13 大分市の代表的な農産物（問15）	38
14 生鮮食品を購入するときに重視すること（問16）	40
15 生鮮食品の購入施設（問17）	42
16 地元農産物の購入について（問18）	44
17 米粉を使用した料理について（問19）	46
18 地産地消への関わり方（問19）	48
（1）地産地消への関わり方（問20）	48
（2）体験してみたいこと（問20副問）	50

19	食品ロスについて（問 21）	52
20	食品ロスを軽減するための取組（問 22）	54
21	伝統料理への関心（問 23）	56
22	知っている大分の郷土料理（問 24）	58
23	作ることのできる大分の郷土料理（問 25）	60
24	食事マナーの受け継ぎ（問 26）	62
25	食事マナーの伝承（問 27）	64

## I 調査概要

### (1) 調査の目的

本調査は、第2期大分市食育推進計画の評価及び第3期大分市食育推進計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

### (2) 調査の実施方法

調査は、以下の方法により実施しました。

1 調査対象者と抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出した15歳以上の大分市民
2 対象者数	3,000人
3 調査方法	郵送調査法
4 調査期間	平成29年1月13日～平成29年2月6日
5 回収状況	配布数 3,000 有効回答数 1,524 有効回答率 50.8%

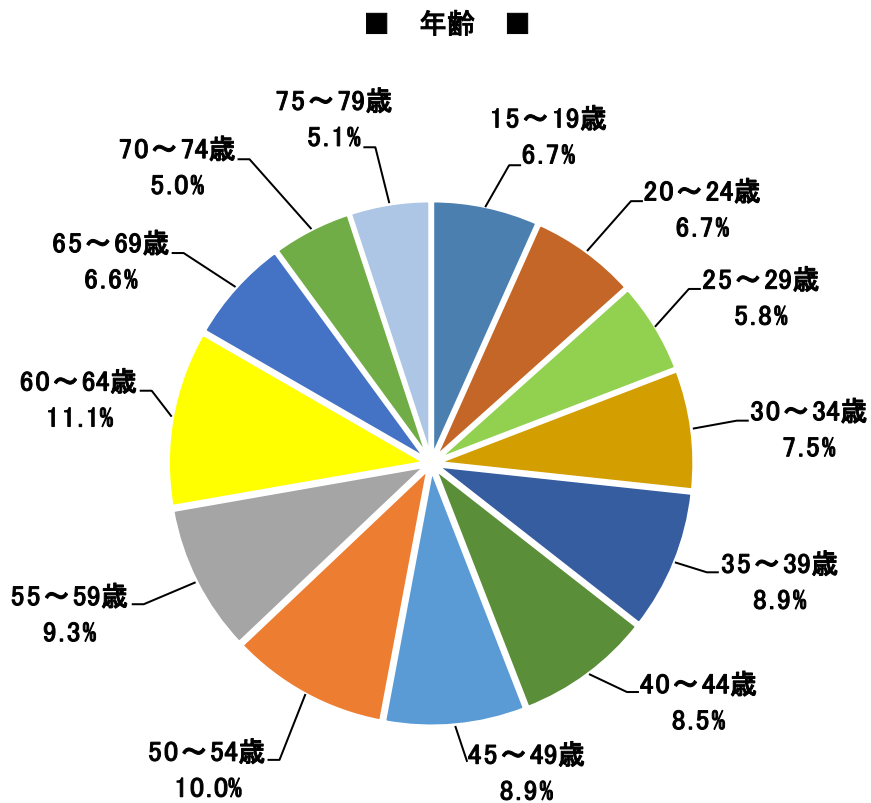
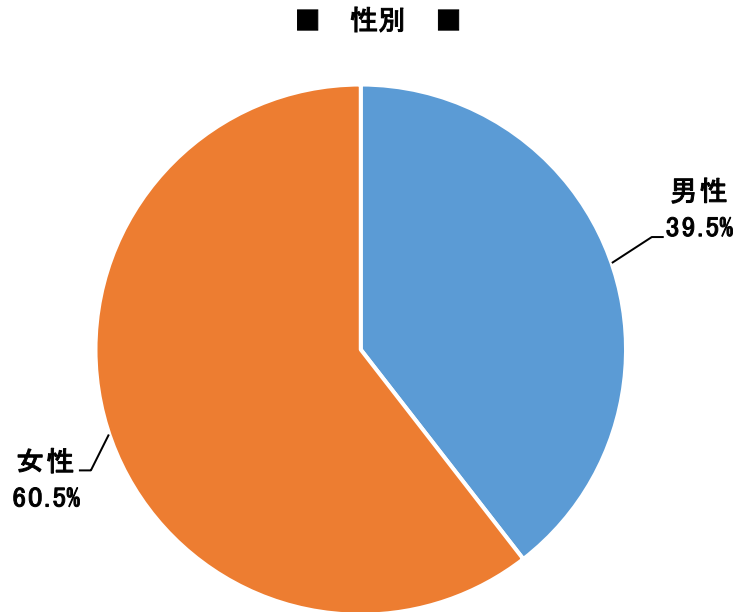
### (3) 調査結果利用上の留意事項

- 回答比率は、小数点第2位を四捨五入していますので、合計が100%にならないことがあります。
- 2つ以上の回答を求めた（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超えます。
- 図に表示された「n」は、回答者数を示しています。

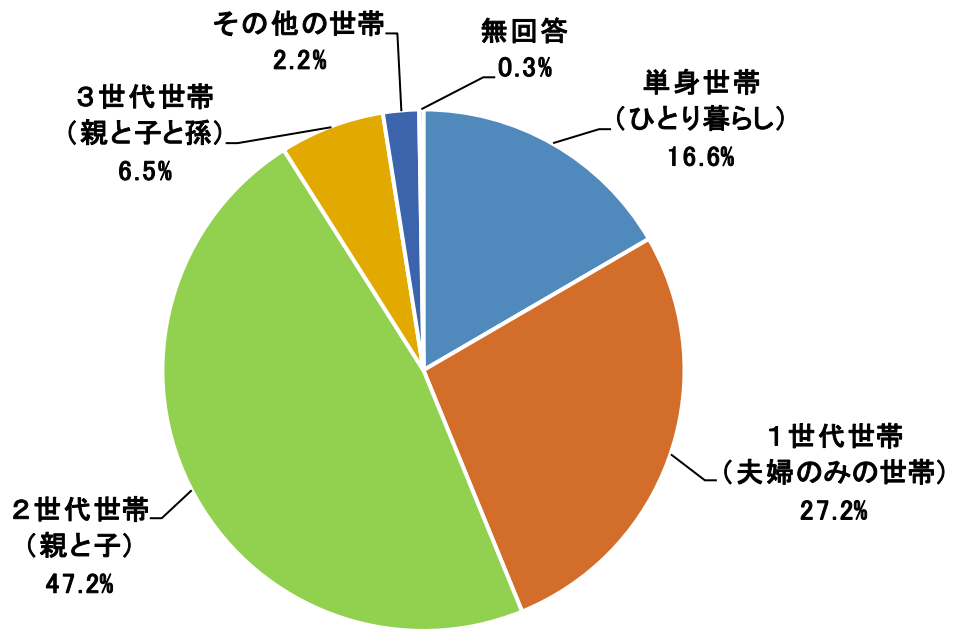
## Ⅱ 調査結果

### 1 回答者属性（問1～問3）

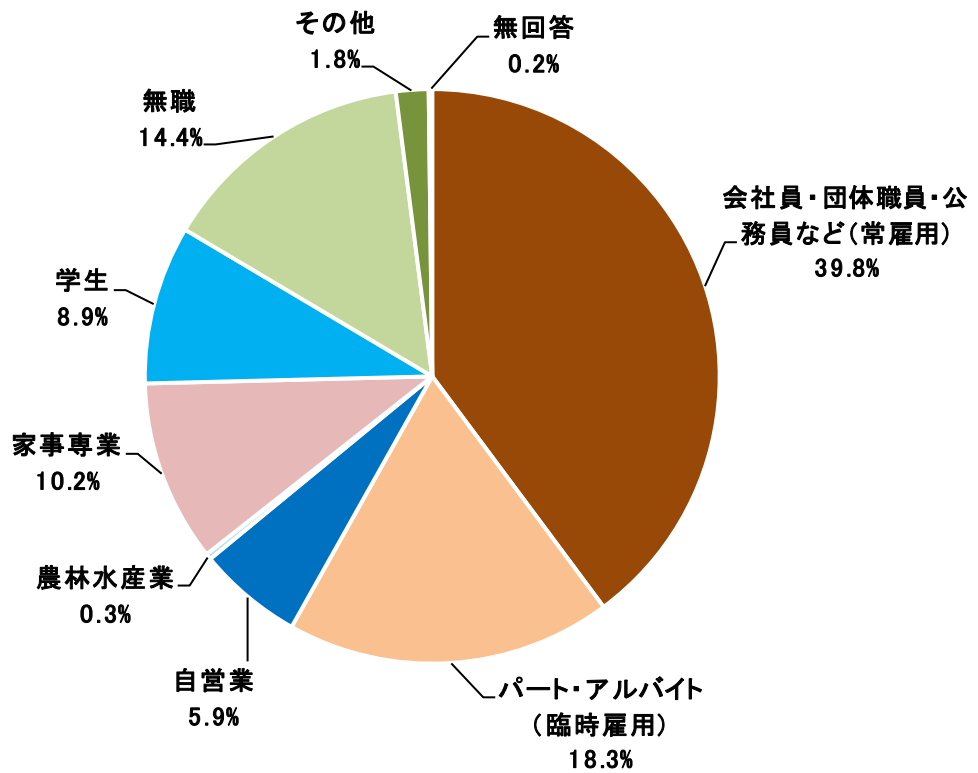
有効回答のあった1,524人の属性は、以下のとおりです。



■ 世帯構成 ■



■ 職業 ■



## 2 食育への関心度について

### (1) 食育への関心度（問4）

食育への関心についてみると、「関心がある」が28.3%、「どちらかといえば関心がある」が43.7%、合計した関心率は72.0%となっています。「どちらかといえば関心がない」は15.0%、「関心がない」は7.4%、「わからない」は5.1%となっています。

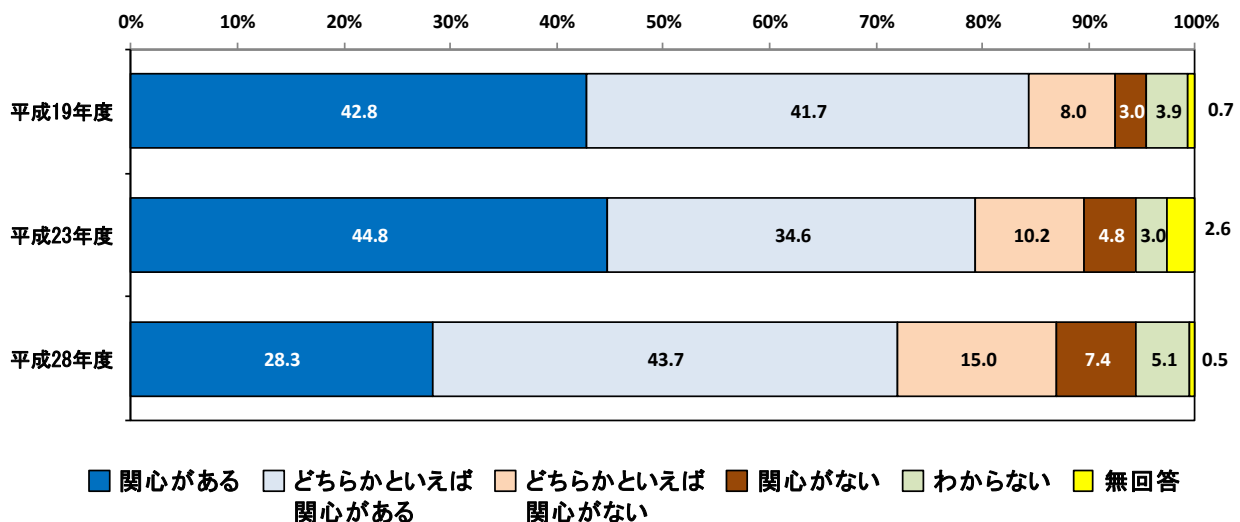
#### 【経年変化】

- 平成19年度、23年度では「関心がある」が40%を超えていましたが、今回は28.3%に減少しています。関心率も平成19年度の84.5%から平成23年度79.4%、今回はそれよりも7.4ポイント減少し、72.0%となっています。

#### 【属性別特徴】

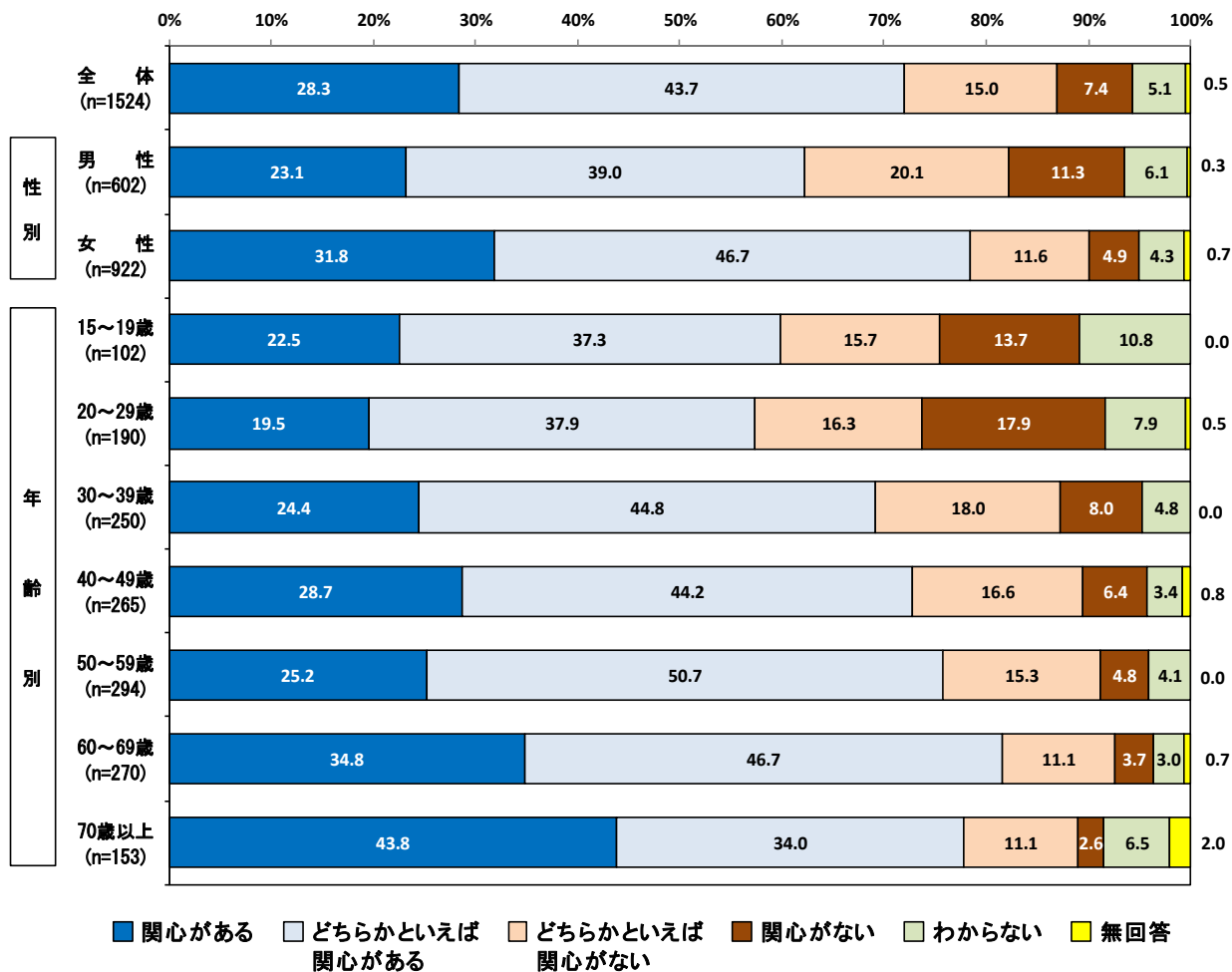
- 性別にみると、関心率は、男性は62.1%と少なく、女性は78.5%、男性より16.4ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、関心率は、15～19歳が59.8%、20～29歳の57.4%が最も少なくなっています。20～29歳以上では年齢が高くなるとともに多くなり、60～69歳では81.5%と最も多くなりますが、70歳以上では77.8%とやや少なくなっています。

### 問4 食育について関心がありますか。（○はひとつ）





問4 食育について関心がありますか。(〇はひとつ)



(2) 関心がある理由 (問4-1)

食育に関心がある理由としては、「肥満や生活習慣病の増加が問題になっているから」が36.0%と最も多くなっています。次いで「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(20.3%)、「食生活の乱れが問題になっているから」(12.2%)、「食品の安全に対する不安があるから」(11.6%)となっています。

【経年変化】

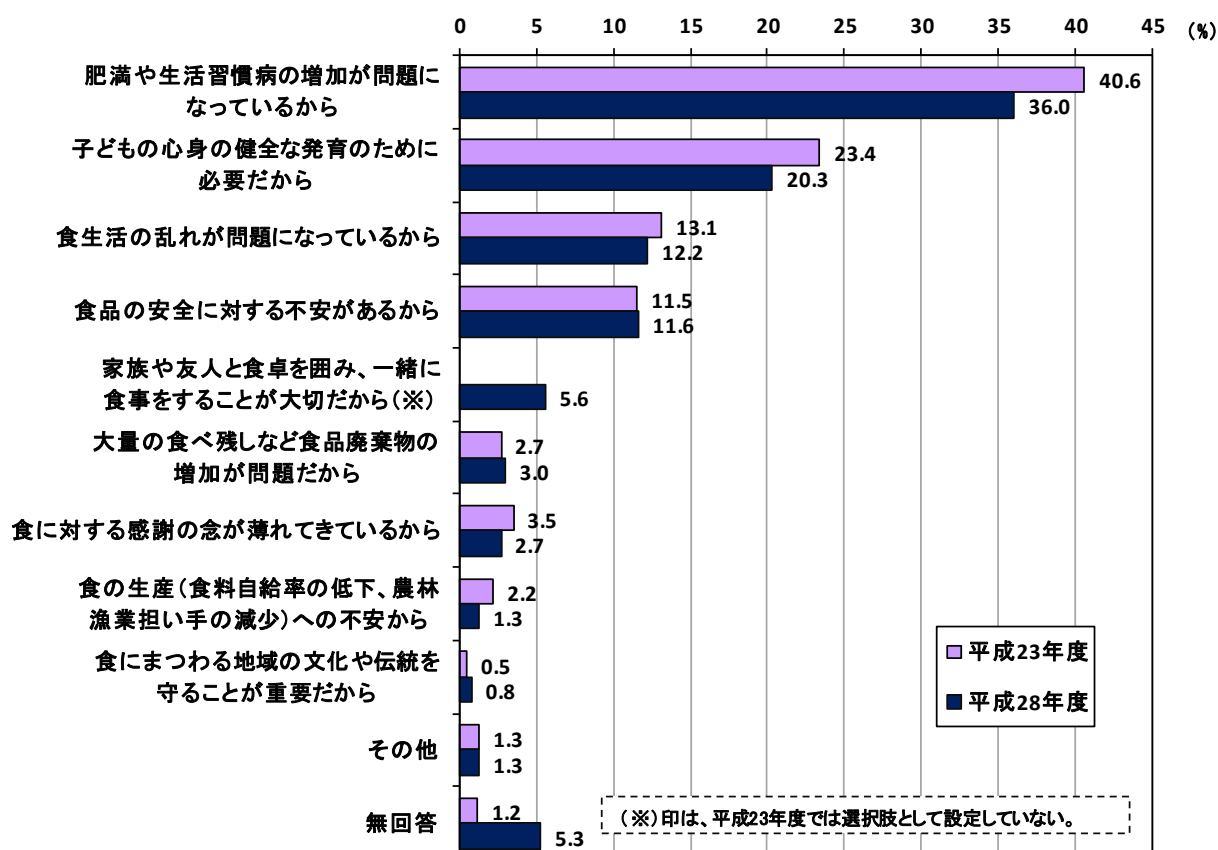
- 平成23年度とほぼ同じ傾向にありますが、「肥満や生活習慣病の増加が問題になっているから」は40.6%から36.0%へ4.6ポイント減少、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」も23.4%から20.3%へ3.1ポイント減少しています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、「肥満や生活習慣病の増加が問題になっているから」(男性39.6%－女性34.1%)は男性が多く、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(男性16.0%－女性22.5%)は女性が多くなっています。
- 年齢別にみると、15～19歳、20～29歳では「食生活の乱れが問題になっているから」、30～39歳、40～49歳では「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」、50～59歳、60～69歳では「肥満や生活習慣病の増加が問題になっているから」が他の年齢層より多くなっています。

問4-1 問4で1・2に○をつけた方におたずねします。

食育に関心がある理由で、最もあてはまるものはどれですか。(○はひとつ)



問4-1 問4で1・2に○をつけた方におたずねします。

食育に関心がある理由で、最もあてはまるものはどれですか。(○はひとつ)

		サンプル数	子どもの心身の健全な発育のために必要だから	食生活の乱れが問題になっているから	肥満や生活習慣病の増加が問題になっているから	食品の安全に対する不安があるから	食の生産(食料自給率の低下、農林漁業担い手の減少)への不安から	食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	大量の食べ残しなど食品廃棄物の増加が問題だから	食に対する感謝の念が薄れてきているから	家族や友人と食卓を囲み、一緒に食事をすることが大切だから	その他	無回答
全体		1098	20.3	12.2	36.0	11.6	1.3	0.8	3.0	2.7	5.6	1.3	5.3
性別	男性	374	16.0	13.4	39.6	11.0	2.1	1.1	3.2	4.0	3.7	0.5	5.3
	女性	724	22.5	11.6	34.1	11.9	0.8	0.7	2.9	2.1	6.5	1.7	5.2
年齢別	15~19歳	61	8.2	<b>23.0</b>	26.2	4.9	3.3	-	<b>11.5</b>	4.9	9.8	4.9	3.3
	20~29歳	109	18.3	<b>22.9</b>	32.1	9.2	-	-	-	1.8	8.3	1.8	5.5
	30~39歳	173	<b>27.2</b>	11.0	28.9	11.0	0.6	1.7	1.2	5.8	5.8	1.2	5.8
	40~49歳	193	<b>32.6</b>	7.8	30.6	9.8	0.5	1.6	3.1	2.1	6.2	0.5	5.2
	50~59歳	223	17.9	9.0	<b>44.8</b>	11.2	1.8	0.4	4.0	2.2	3.6	-	4.9
	60~69歳	220	16.4	10.9	<b>41.8</b>	15.0	0.9	0.5	1.4	1.8	5.0	1.8	4.5
	70歳以上	119	10.1	14.3	36.1	15.1	3.4	0.8	5.0	1.7	4.2	1.7	7.6

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

### 3 朝食の摂取状況

#### (1) 朝食摂取頻度（問5）

朝食の摂取頻度についてみると、「ほぼ毎日食べる」が75.5%、「週に3～4回食べる」が5.4%、「週に1～2回食べる」が5.8%、「ほとんど食べない」が9.8%となっています。

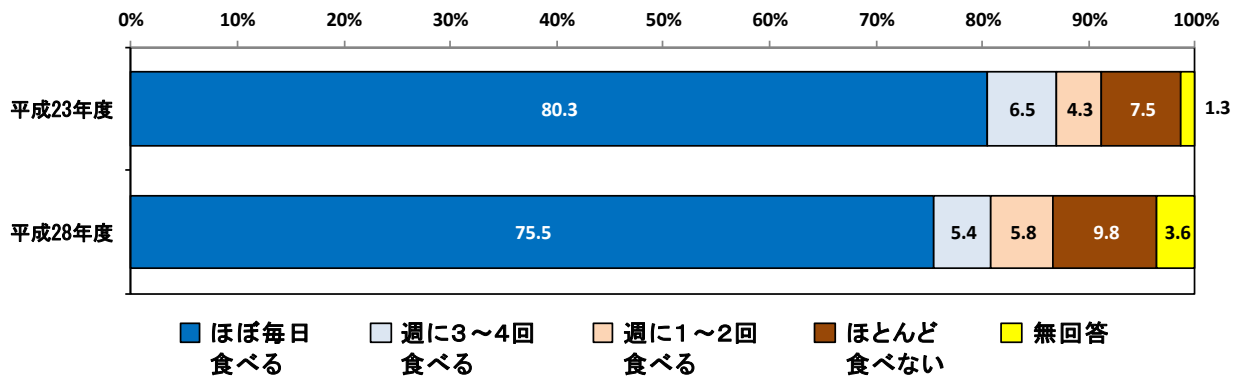
#### 【経年変化】

- 「ほぼ毎日食べる」は平成23年度の80.3%から4.8ポイント減少して75.5%となっています。「ほとんど食べない」は7.5%から9.8%に2.3ポイントと増加しています。

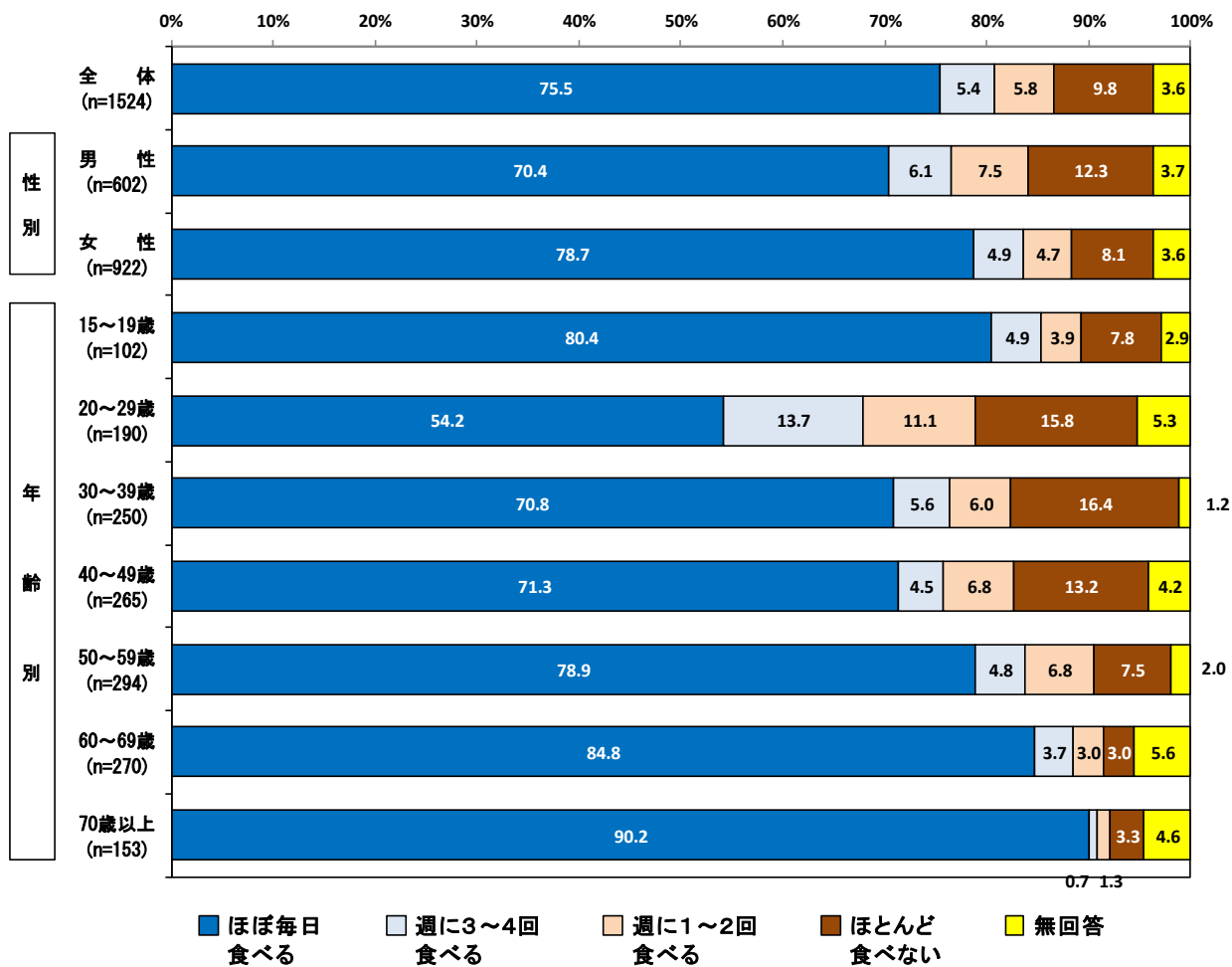
#### 【属性別特徴】

- 性別にみると、男性では「ほぼ毎日食べる」が70.4%（女性78.7%）と少なく、「ほとんど食べない」が12.3%（女性8.1%）と多くなっています。
- 15～19歳を除くと。年齢が低いほど摂取頻度が少なくなっており、20～29歳では「ほぼ毎日食べる」は54.2%と半数強にとどまっています。

問5 朝食をどのくらいの頻度で食べますか。（〇はひとつ）



問5 朝食をどのくらいの頻度で食べますか。(〇はひとつ)



(2) 朝食を食べない理由 (問5-1 ①)

朝食を食べない理由としては、「食べる時間がない」が44.2%と最も多くなっています。次いで「食欲がない」(28.2%)、「朝食をとる習慣がない」(24.5%)、「作る時間がない」(16.9%)、「作るのが面倒」(16.6%)となっています。

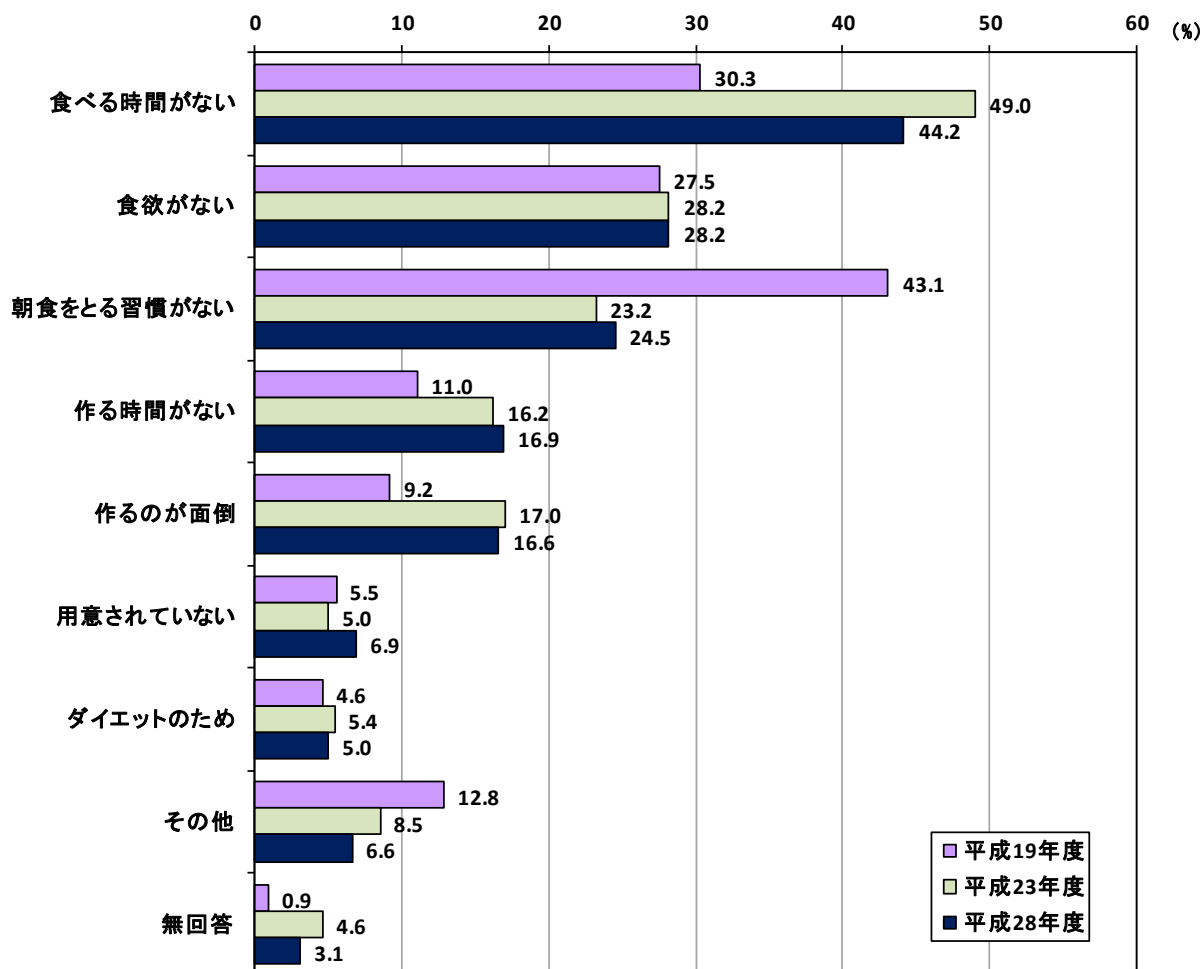
【経年変化】

- 最も多い理由である「食べる時間がない」は平成19年度では30.3%でしたが、平成23年度には49.0%とほぼ半数を占め、今回は減少しているものの44.2%と、平成19年度と比べると13.9ポイントの大幅な増加となっています。逆に、「朝食をとる習慣がない」は平成23年度、そして今回と20%強に減少しています。「食欲がない」は平成19年度からほとんど変化はみられません。

【属性別特徴】

- 年齢別にみると、15～19歳、20～29歳では「食べる時間がない」が半数を超えています。

問5-1 問5で2・3・4に○をつけた方におたずねします。  
① 朝食を食べない理由は何ですか。(○はいくつでも)



問5-1 問5で2・3・4に○をつけた方におたずねします。

① 朝食を食べない理由は何ですか。(○はいくつでも)

		サンプル数	食べる時間がない	作る時間がない	食欲がない	朝食をとる習慣がない	用意されていない	作るのが面倒	ダイエットのため	その他	無回答
全体		319	44.2	16.9	28.2	24.5	6.9	16.6	5.0	6.6	3.1
性別	男性	156	44.9	14.1	23.7	22.4	9.0	12.2	3.2	5.8	1.9
	女性	163	43.6	19.6	32.5	26.4	4.9	20.9	6.7	7.4	4.3
年齢別	15～19歳	17	<b>64.7</b>	<b>35.3</b>	<b>35.3</b>	17.6	<b>23.5</b>	<b>29.4</b>	-	-	-
	20～29歳	77	<b>58.4</b>	<b>23.4</b>	27.3	14.3	7.8	<b>31.2</b>	3.9	9.1	3.9
	30～39歳	70	47.1	15.7	25.7	27.1	2.9	12.9	2.9	4.3	4.3
	40～49歳	65	36.9	10.8	29.2	<b>35.4</b>	4.6	4.6	9.2	6.2	1.5
	50～59歳	56	35.7	16.1	26.8	23.2	10.7	14.3	7.1	7.1	3.6
	60～69歳	26	30.8	7.7	<b>34.6</b>	23.1	3.8	11.5	3.8	7.7	-
	70歳以上	8	-	12.5	25.0	<b>37.5</b>	-	12.5	-	<b>12.5</b>	12.5

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

(3) 朝食を食べない習慣になった時期（問5-1 ②）

朝食を食べない習慣についてみると、「小学校入学前から」は0.6%しかなく、「小学生の頃から」が3.4%、「中学生の頃から」が6.0%、「16～19歳頃から」で21.9%と多くなり、「成人以降」が62.1%と圧倒的に多くなっています。

【経年変化】

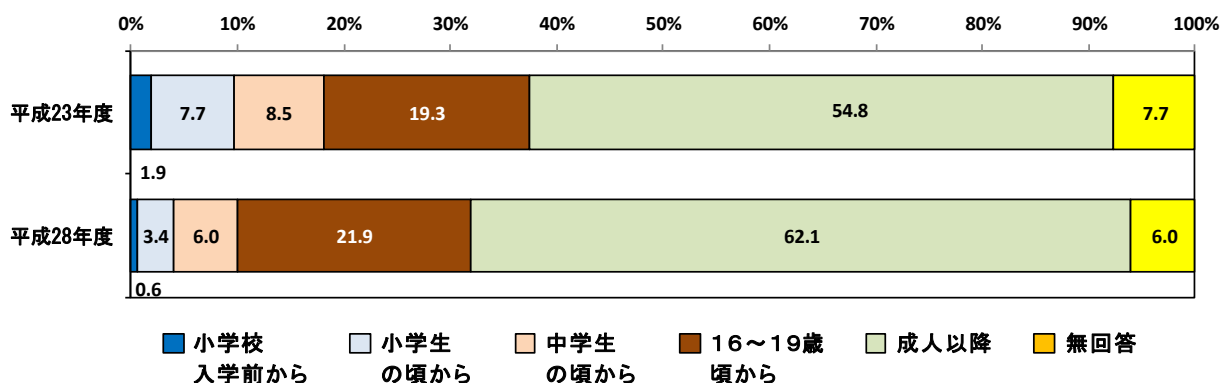
- 「成人以降」54.8%から62.1%へ7.3ポイント増、「16～19歳頃から」が19.3%から21.9%へ2.6ポイント増加しています。

【属性別特徴】

- 年齢別にみると、年齢が低くなるほど「16～19歳頃から」が多くなっています。20～29歳では「16～19歳頃から」が32.5%となっています。

問5-1 問5で2・3・4に○をつけた方におたずねします。

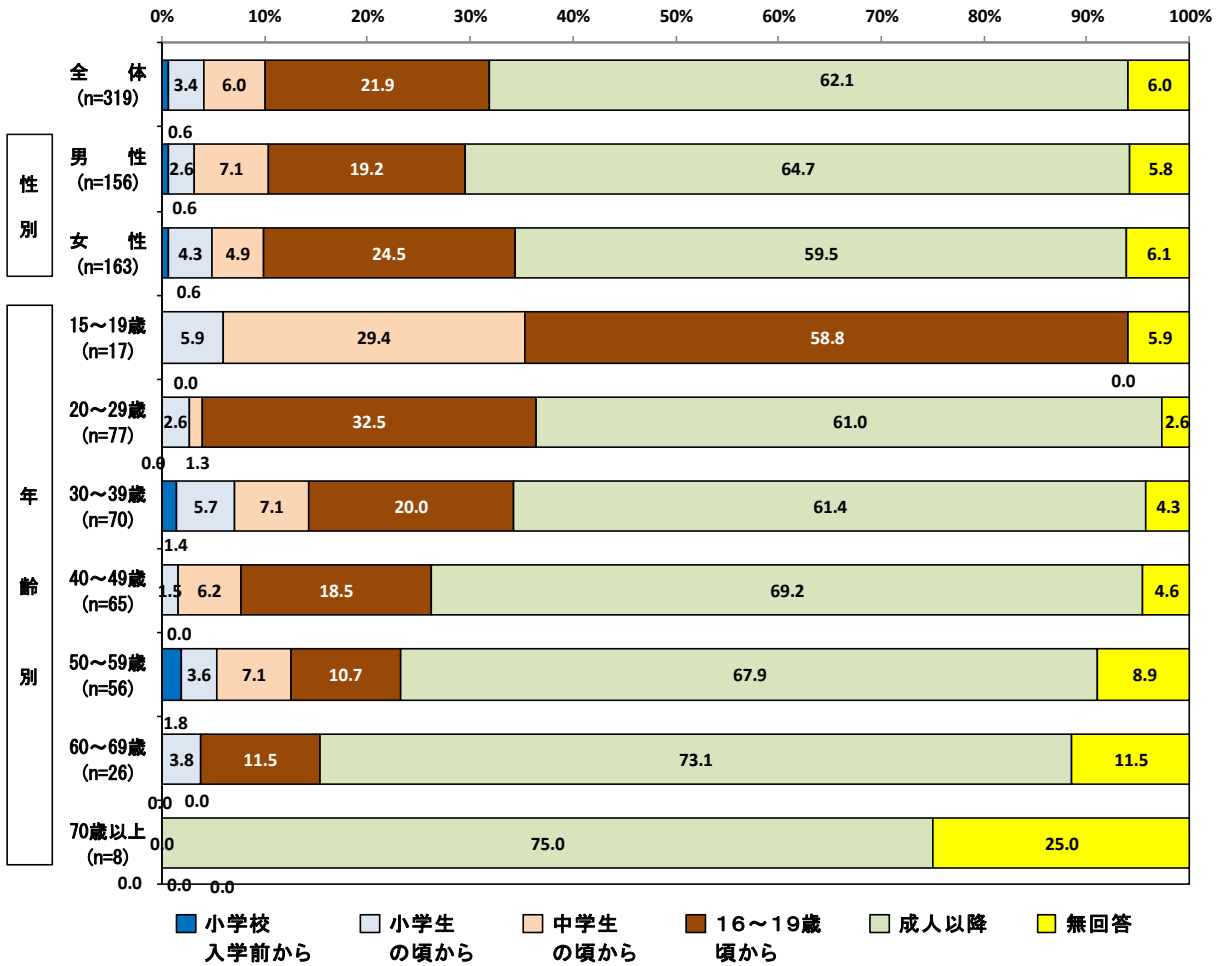
② 朝食を食べない習慣はいつごろからですか。（○はひとつ）





問5-1 問5で2・3・4に○をつけた方におたずねします。

② 朝食を食べない習慣はいつごろからですか。(○はひとつ)



#### 4 家族一緒の食事（問6）

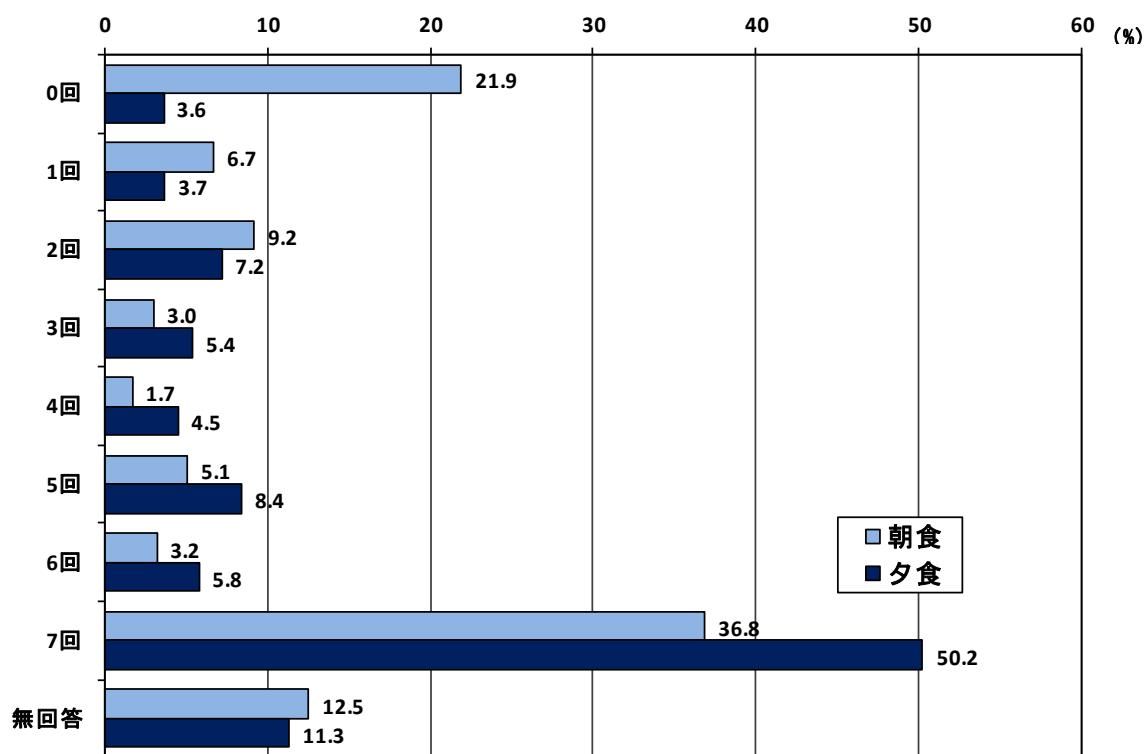
家族と一緒に朝食、夕食の回数をみると、「7回」が、朝食で36.8%、夕食では50.2%と多く、その平均回数は、朝食が3.9回、夕食が5.4回となっています。

また、朝食では「0回」も21.9%と多くなっています。

##### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、朝食では20～29歳の2.6回が最も少なく、夕食では30～39歳の4.7回が最も少なくなっています。

問6 家族と一緒に朝食や夕食を、週に何回食べますか。（※単身世帯を除く）



問6 家族と一緒に朝食や夕食を、週に何回食べますか。(※単身世帯を除く)

【朝食】

		サンプル数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	無回答	平均・回／週
全体		1267	21.9	6.7	9.2	3.0	1.7	5.1	3.2	36.8	12.5	3.9
性別	男性	475	25.1	7.4	7.8	2.1	1.5	5.7	2.9	34.5	13.1	3.7
	女性	792	19.9	6.3	10.0	3.5	1.9	4.8	3.3	38.1	12.1	4.0
年齢別	15～19歳	95	23.2	4.2	11.6	5.3	1.1	6.3	2.1	31.6	14.7	3.7
	20～29歳	141	<b>33.3</b>	9.9	13.5	3.5	0.7	8.5	-	19.1	11.3	2.6
	30～39歳	209	<b>30.6</b>	8.1	9.1	2.4	2.4	6.7	3.3	28.2	9.1	3.2
	40～49歳	234	<b>27.8</b>	8.5	10.3	2.6	0.9	6.0	4.3	29.9	9.8	3.4
	50～59歳	236	18.2	8.1	11.9	3.8	2.5	5.1	4.2	34.3	11.9	3.9
	60～69歳	233	11.6	3.4	5.6	3.4	2.6	2.6	2.6	<b>53.6</b>	14.6	5.1
	70歳以上	119	7.6	2.5	1.7	-	0.8	0.8	4.2	<b>62.2</b>	20.2	5.9

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

【夕食】

		サンプル数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	無回答	平均・回／週
全体		1267	3.6	3.7	7.2	5.4	4.5	8.4	5.8	50.2	11.3	5.4
性別	男性	475	5.5	3.8	9.7	5.7	5.9	9.7	5.1	41.9	12.8	5.0
	女性	792	2.5	3.7	5.7	5.2	3.7	7.6	6.2	<b>55.2</b>	10.4	5.6
年齢別	15～19歳	95	1.1	1.1	6.3	4.2	<b>9.5</b>	12.6	5.3	49.5	10.5	5.6
	20～29歳	141	5.7	7.1	2.8	7.8	7.8	<b>17.0</b>	6.4	34.8	10.6	4.9
	30～39歳	209	7.2	7.2	11.5	8.1	3.8	8.1	5.7	42.1	6.2	4.7
	40～49歳	234	3.8	4.3	10.3	6.0	4.3	9.4	6.4	47.4	8.1	5.2
	50～59歳	236	2.5	2.1	9.7	6.4	4.2	6.8	5.9	52.5	9.7	5.5
	60～69歳	233	2.6	2.1	3.9	2.1	3.0	3.9	4.7	<b>62.7</b>	15.0	6.1
	70歳以上	119	0.8	0.8	0.8	1.7	1.7	5.0	5.9	<b>59.7</b>	23.5	6.4

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

## 5 仲間や友人との食事会等について

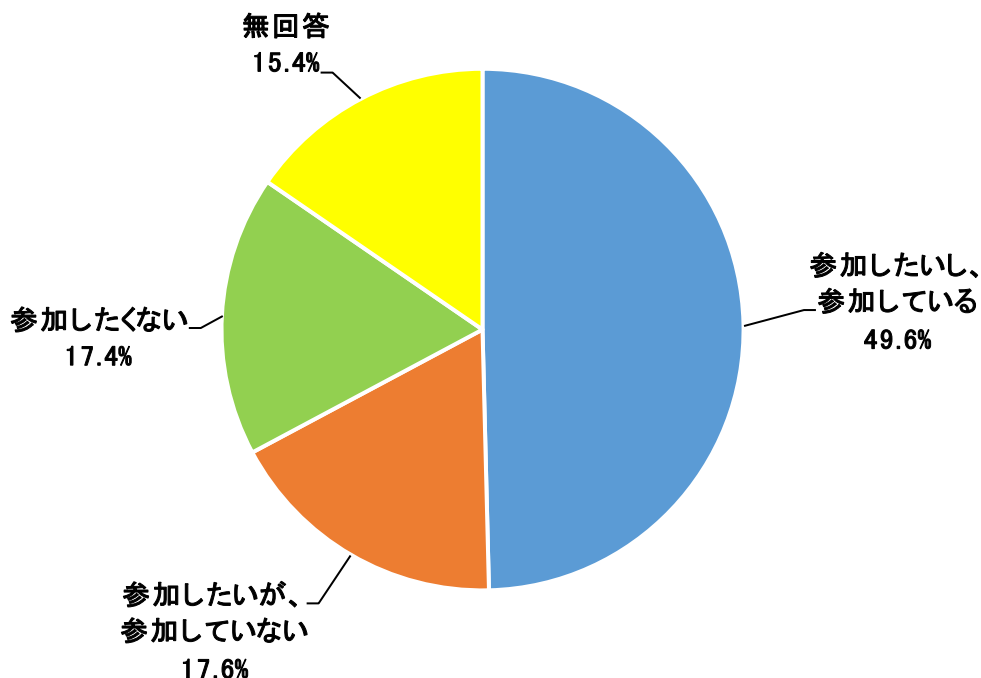
### (1) 仲間や友人との食事会等への参加意向（問7）

地域や職場、学校などの仲間や友人との食事会等の機会への参加意向をみると、「参加したいし、参加している」が49.6%、「参加したいが、参加していない」が17.6%、「参加したくない」が17.4%となっています。

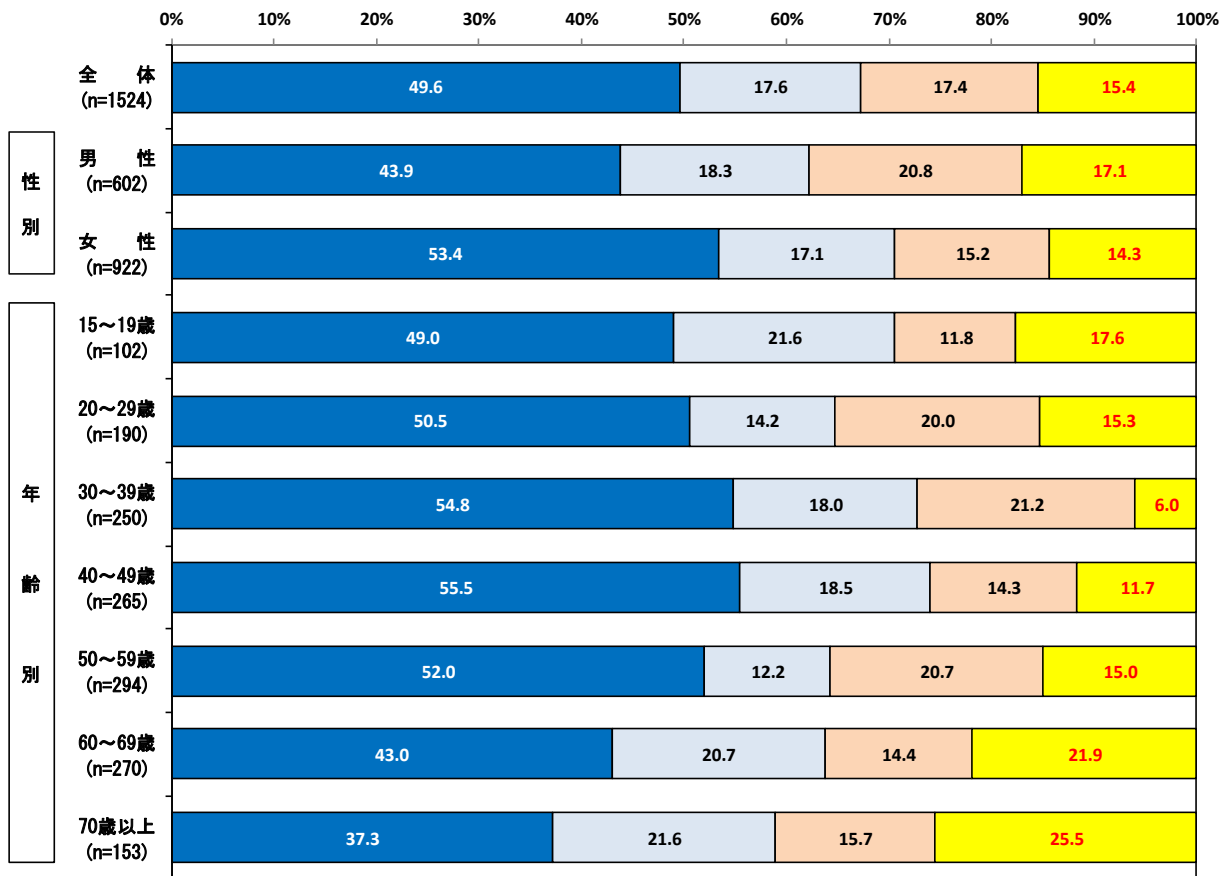
#### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「参加したいし、参加している」は、女性では53.4%と半数を超えていますが、男性では43.9%と少なくなっています。
- 年齢別にみると、50歳代以下では半数前後ありますが、60～69歳では43.0%、70歳以上では37.3%と少なくなっています。

問7 地域や職場、学校などの仲間や友人との食事会等の機会があれば、参加したいと思いますか。（○はひとつ）



問7 地域や職場、学校などの仲間や友人との食事会等の機会があれば、参加したいと思いますか。(〇はひとつ)



■ 参加したいし、参加している □ 参加したいが、参加していない □ 参加したくない □ 無回答

## (2) 仲間や友人との食事会等への参加条件 (問7-1)

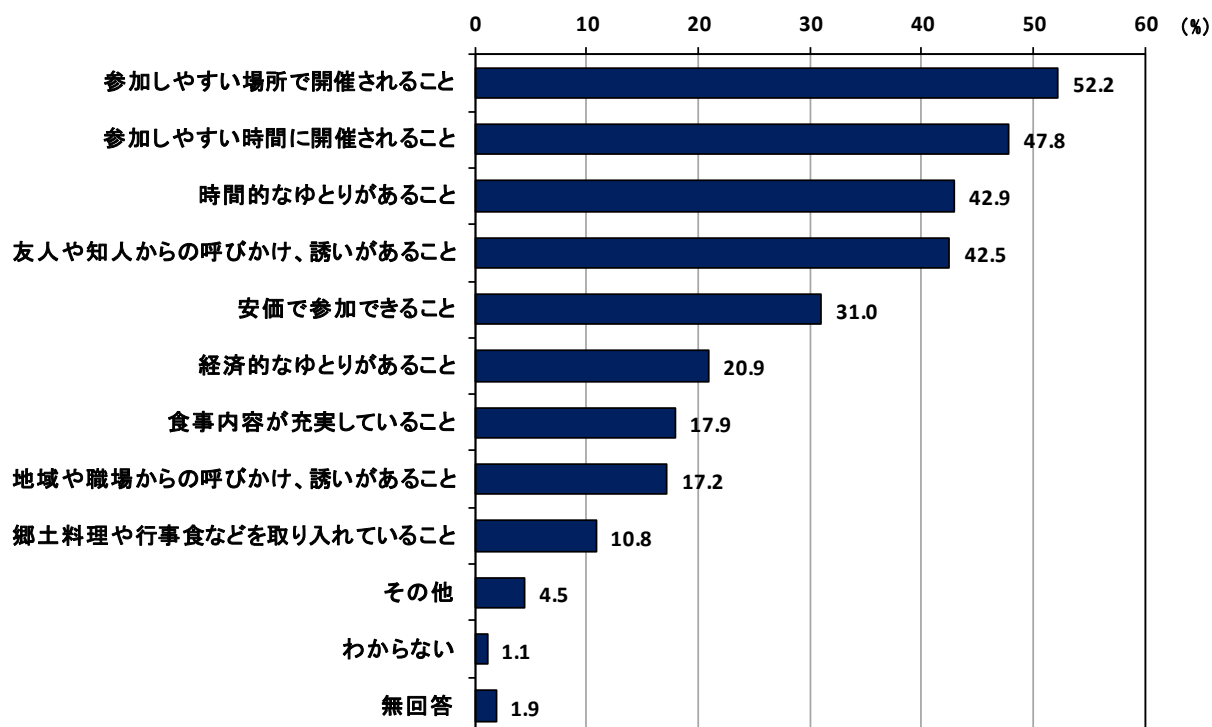
地域や職場、学校などの仲間や友人との食事会等に今後参加するための条件としては、「参加しやすい場所で開催されること」が52.2%と最も多くなっています。次いで「参加しやすい時間に開催されること」(47.8%)、「時間的なゆとりがあること」(42.9%)、「友人や知人からの呼びかけ、誘いがあること」(42.5%)、「安価で参加できること」(31.0%)となっています。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「時間的なゆとりがあること」(男性47.3%—女性39.9%)は男性、「友人や知人からの呼びかけ、誘いがあること」(男性36.4%—女性46.8%)は女性が多くなっています。
- 年齢別にみると、各年齢層のトップは、15～19歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上では「参加しやすい場所で開催されること」、20～29歳では「友人や知人からの呼びかけ、誘いがあること」、30～39歳、40～49歳では「時間的なゆとりがあること」となっています。

問7-1 問7で2に○をつけた方におたずねします。

今後、地域や職場、学校などの仲間や友人との食事会等に参加するにあたってどのような条件であれば参加しますか。(○はいくつでも)



問7-1 問7で2に○をつけた方におたずねします。

今後、地域や職場、学校などの仲間や友人との食事会等に参加するにあたってどのような条件であれば参加しますか。(○はいくつでも)

		サンプル数	参加しやすい場所で開催されること	参加しやすい時間で開催されること	地域や職場からの呼びかけ、誘いがあること	友人や知人からの呼びかけ、誘いがあること	安価で参加できること	経済的なゆとりがあること	時間的なゆとりがあること	郷土料理や行事食などを取り入れていること	食事内容が充実していること	その他	わからない	無回答
全体		268	52.2	47.8	17.2	42.5	31.0	20.9	42.9	10.8	17.9	4.5	1.1	1.9
性別	男性	110	50.9	48.2	20.0	36.4	30.0	23.6	47.3	10.9	11.8	4.5	2.7	1.8
	女性	158	53.2	47.5	15.2	46.8	31.6	19.0	39.9	10.8	22.2	4.4	-	1.9
年齢別	15～19歳	22	<b>72.7</b>	<b>59.1</b>	4.5	<b>68.2</b>	<b>50.0</b>	18.2	36.4	9.1	<b>31.8</b>	4.5	-	-
	20～29歳	27	44.4	51.9	14.8	<b>51.9</b>	29.6	18.5	37.0	11.1	11.1	3.7	-	-
	30～39歳	45	51.1	48.9	20.0	<b>48.9</b>	35.6	<b>26.7</b>	<b>53.3</b>	2.2	15.6	-	-	-
	40～49歳	49	51.0	<b>53.1</b>	<b>22.4</b>	36.7	34.7	<b>30.6</b>	<b>57.1</b>	2.0	16.3	4.1	-	-
	50～59歳	36	<b>61.1</b>	<b>61.1</b>	<b>27.8</b>	41.7	30.6	19.4	<b>55.6</b>	<b>27.8</b>	<b>27.8</b>	2.8	5.6	-
	60～69歳	56	48.2	35.7	8.9	35.7	25.0	19.6	33.9	10.7	16.1	3.6	-	5.4
	70歳以上	33	45.5	33.3	18.2	30.3	18.2	6.1	18.2	<b>18.2</b>	12.1	<b>15.2</b>	3.0	6.1

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

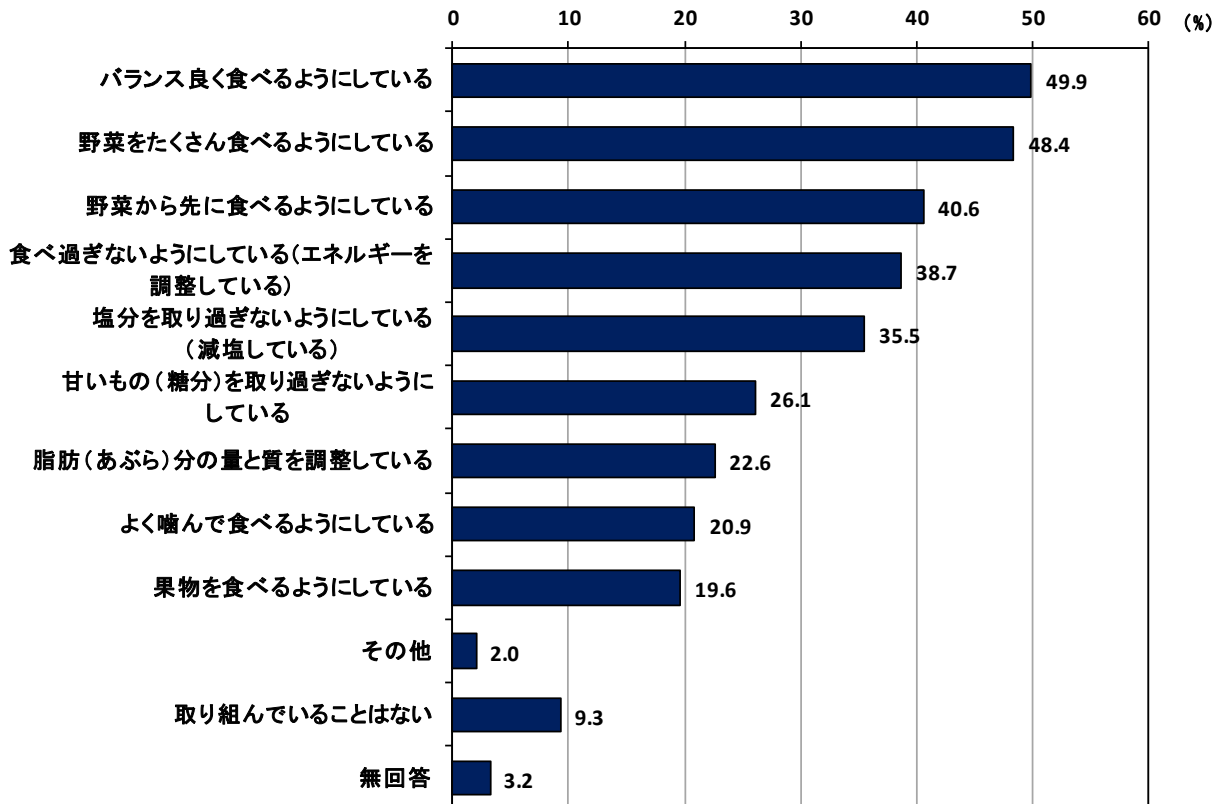
## 6 生活習慣病予防のために取り組んでいること（問8）

生活習慣病の予防や改善のために、食生活の中で取り組んでいることとしては、「バランス良く食べるようにしている」が49.9%と最も多く、次いで「野菜をたくさん食べるようにしている」が48.4%となっています。以下、「野菜から先に食べるようにしている」(40.6%)、「食べ過ぎないようにしている(エネルギーを調整している)」(38.7%)、「塩分を取り過ぎないようにしている(減塩している)」(35.5%)となっています。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「甘いもの(糖分)を取り過ぎないようにしている」のみ男性の方が多く、他の項目はすべて女性の方が多くなっています。特に差の大きいのは、「野菜から先に食べるようにしている」(男性31.7%－女性46.3%)、「野菜をたくさん食べるようにしている」(男性42.4%－女性52.4%)の2つです。
- 年齢別にみると、50歳代以上では全体的に取り組んでいる割合が多くなっています。「取り組んでいない」は15～19歳では18.6%、20～29歳では19.5%、30～39歳では15.2%と多くなっています。

問8 生活習慣病の予防や改善のために、食生活の中で取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)





問8 生活習慣病の予防や改善のために、食生活の中で取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	バランス良く食べるようにしている	食べ過ぎないようにしている (エネルギーを調整している)	塩分を取り過ぎないようにしている (減塩している)	脂肪(あぶら)の量と質を調整している	甘いもの(糖分)を取り過ぎないようにしている	野菜をたくさん食べるようにしている	野菜から先に食べるようにしている	果物を食べるようにしている	よく噛んで食べるようにしている	その他	取り組んでいることはない	無回答
全体		1524	49.9	38.7	35.5	22.6	26.1	48.4	40.6	19.6	20.9	2.0	9.3	3.2
性別	男性	602	44.4	36.5	31.7	18.8	26.6	42.4	31.7	14.1	16.3	1.7	13.0	3.2
	女性	922	53.5	40.1	38.0	25.2	25.8	52.4	<b>46.3</b>	23.2	24.0	2.3	6.8	3.3
年齢別	15～19歳	102	31.4	31.4	15.7	8.8	22.5	28.4	32.4	18.6	17.6	1.0	<b>18.6</b>	5.9
	20～29歳	190	35.3	26.8	14.2	6.8	18.4	32.6	39.5	9.5	19.5	2.6	<b>19.5</b>	4.2
	30～39歳	250	45.2	28.0	24.0	15.2	21.2	42.4	40.0	14.4	16.0	2.4	<b>15.2</b>	1.2
	40～49歳	265	48.3	36.2	27.9	20.4	21.5	49.4	42.6	17.0	18.5	2.3	8.7	3.0
	50～59歳	294	53.4	<b>45.2</b>	<b>42.2</b>	<b>29.3</b>	25.5	<b>56.5</b>	44.6	19.7	16.0	1.7	3.7	1.7
	60～69歳	270	<b>61.9</b>	<b>51.5</b>	<b>52.2</b>	<b>35.2</b>	<b>34.4</b>	<b>54.4</b>	38.5	24.4	21.9	1.5	3.0	5.9
	70歳以上	153	<b>62.7</b>	<b>45.1</b>	<b>64.7</b>	<b>32.7</b>	<b>40.5</b>	<b>63.4</b>	40.5	<b>37.3</b>	<b>45.1</b>	2.6	3.3	2.0

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 7 健康な食生活の実践について

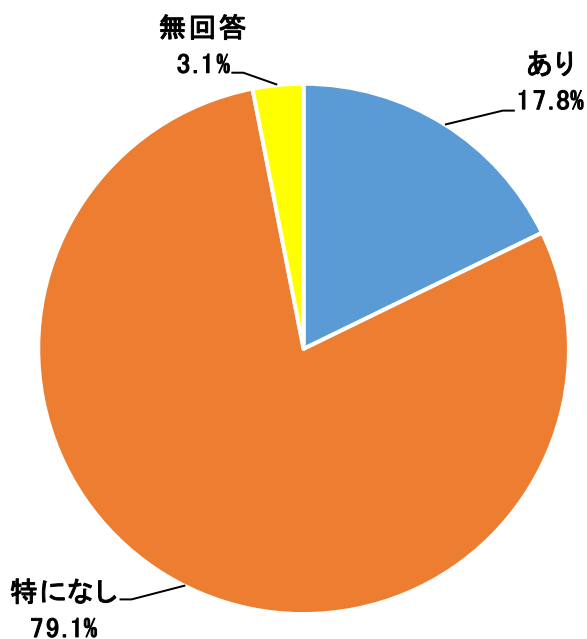
### (1) 実践状況（問9）

健康な食生活を実践するために参考にしているものについてみると、「ある」は17.8%、「特になし」が79.1%となっています。

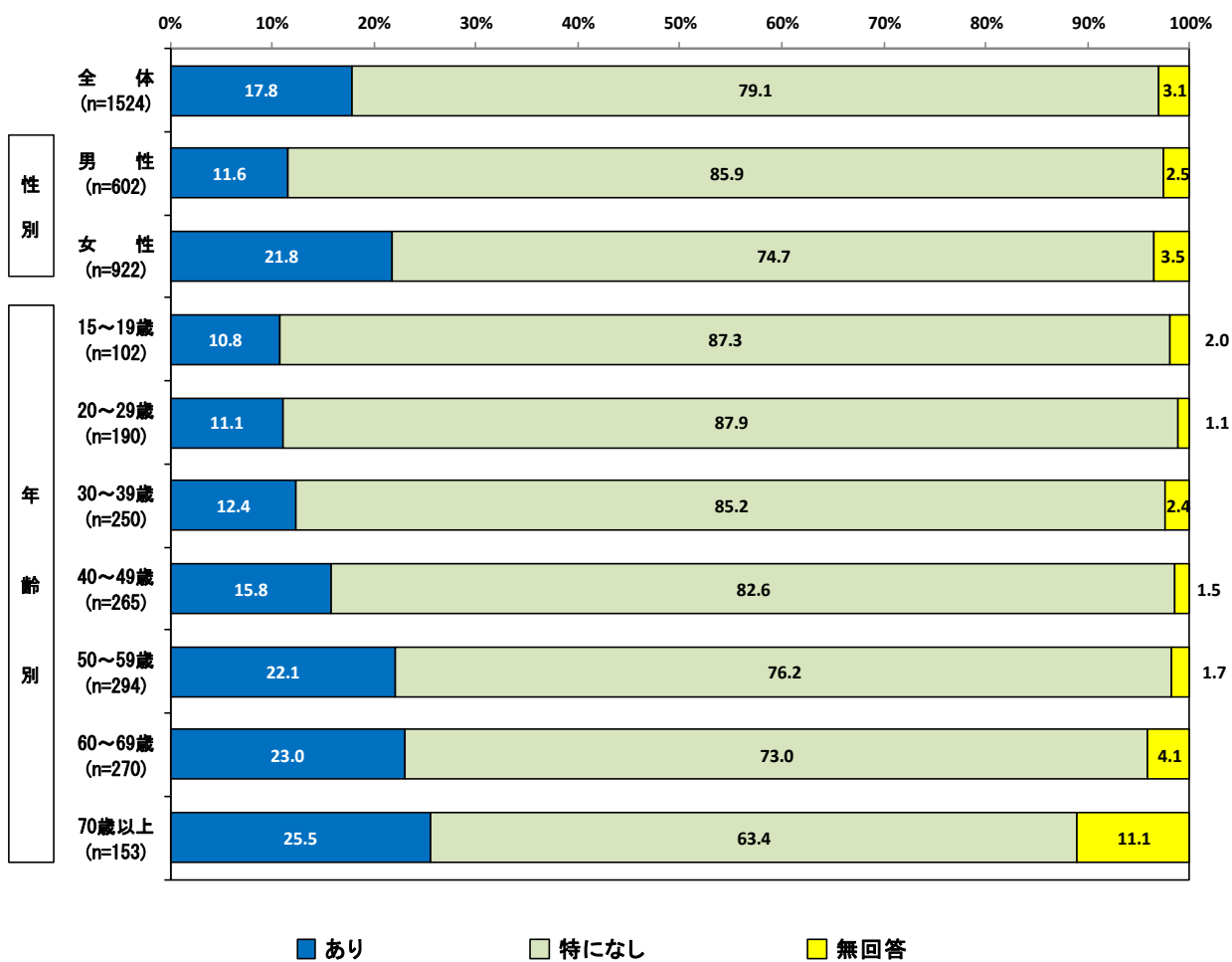
#### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「あり」は男性の11.6%に対し、女性は21.8%と多くなっています。
- 年齢別にみると、「あり」は年齢が高いほど多くなっています。15～19歳では10.8%ですが、70歳以上では25.5%と多くなっています。

問9 健康な食生活を実践するために参考にしているものがありますか。（○は1つ）



問9 健康な食生活を実践するために参考にしているものがありますか。(〇は1つ)



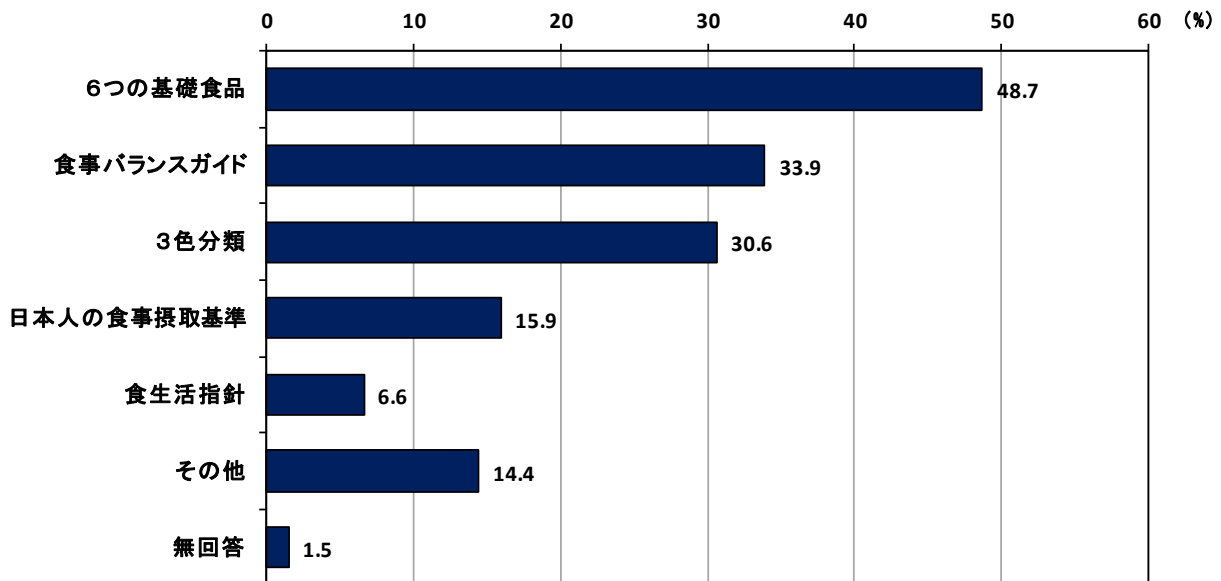
(2) 参考にしているもの (問9-1)

健康な食生活を実践するために参考にしているものとしては、「6つの基礎食品」が48.7%と最も多くなっています。次いで「食事バランスガイド」(33.9%)、「3色分類」(30.6%)、「日本人の食事摂取基準」(15.9%)となっています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、「6つの基礎食品」(男性 38.6%—女性 52.2%)で男女の差が特に大きくなっています。

問9-1 問9で1に○をつけた方におたずねします。  
参考にしているものは次のうちどれですか。(○は3つまで)



問9-1 問9で1に○をつけた方におたずねします。

参考にしているものは次のうちどれですか。(○は3つまで)

		サンプル数	食事バランスガイド	6つの基礎食品	3色分類	日本人の食事摂取基準	食生活指針	その他	無回答
全体		271	33.9	48.7	30.6	15.9	6.6	14.4	1.5
性別	男性	70	32.9	38.6	24.3	21.4	12.9	15.7	1.4
	女性	201	34.3	52.2	32.8	13.9	4.5	13.9	1.5
年齢別	15～19歳	11	45.5	54.5	45.5	18.2	18.2	-	9.1
	20～29歳	21	9.5	28.6	38.1	14.3	9.5	28.6	-
	30～39歳	31	29.0	35.5	25.8	22.6	3.2	25.8	-
	40～49歳	42	26.2	52.4	33.3	21.4	-	19.0	2.4
	50～59歳	65	27.7	44.6	27.7	16.9	7.7	15.4	1.5
	60～69歳	62	45.2	58.1	33.9	9.7	1.6	6.5	-
	70歳以上	39	48.7	56.4	23.1	12.8	17.9	7.7	2.6

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 8 噛むことの効果について（問10）

「噛む」こと効果については、「満腹感を得られ、肥満の予防となる」が78.0%と圧倒的に多くなっています。次いで「脳細胞の働きが活発になり、脳の老化を防ぐ」（44.4%）、「味わうことで、食事の満足度が得られる」（43.4%）、「唾液がよく出て、うまく飲み込める」（36.7%）となっています。

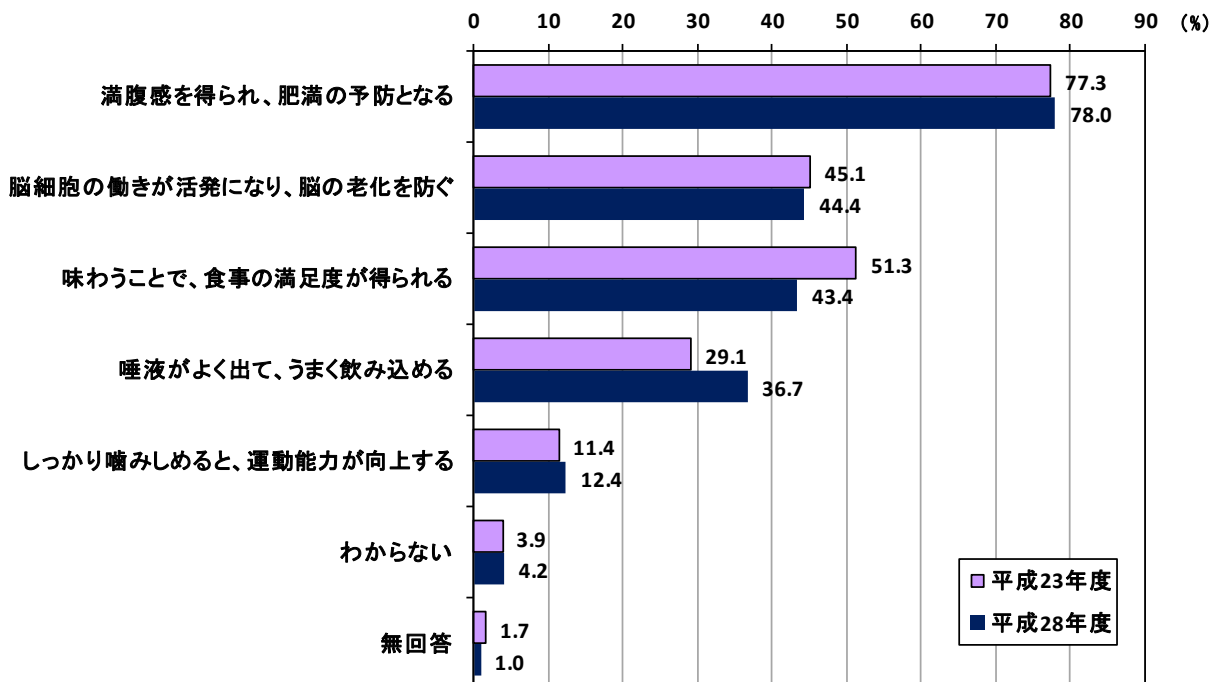
### 【経年変化】

- 「味わうことで、食事の満足度が得られる」は、平成23年度の51.3%から43.4%に7.9ポイント減少し、「唾液がよく出て、うまく飲み込める」は、平成23年度の29.1%から36.7%に7.6ポイント増加しています。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、女性では「満腹感を得られ、肥満の予防となる」が84.8%（男性67.4%）と特に多くなっています。
- 年齢別にみると、50歳以上では「脳細胞の働きが活発になり、脳の老化を防ぐ」が50%を超えています。

問10 「噛む」ことは、どのような効果があると思いますか。（〇はいくつでも）



問10 「噛む」ことは、どのような効果があると思いますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	満腹感を得られ、肥満の予防となる	味わうことで、食事の満足度が得られる	唾液がよく出て、うまみ飲み込める	しつかり噛みしめると、運動能力が向上する	脳細胞の働きが活発になり、脳の老化を防ぐ	わからない	無回答	両方またはいずれか回答することの
全体		1524	78.0	43.4	36.7	12.4	44.4	4.2	1.0	47.4
性別	男性	602	67.4	41.7	32.1	13.3	39.7	8.5	0.8	46.3
	女性	922	<b>84.8</b>	44.6	39.7	11.8	47.5	1.4	1.2	48.2
年齢別	15～19歳	102	72.5	33.3	11.8	11.8	22.5	<b>10.8</b>	1.0	40.2
	20～29歳	190	77.9	43.2	31.6	11.1	27.9	4.2	0.5	47.4
	30～39歳	250	82.8	44.4	34.0	12.4	32.0	3.6	0.8	50.4
	40～49歳	265	<b>85.7</b>	40.0	34.3	14.7	46.0	5.3	1.1	44.9
	50～59歳	294	79.6	45.2	40.8	8.5	<b>53.4</b>	3.4	1.0	46.6
	60～69歳	270	74.1	41.9	<b>44.8</b>	11.9	<b>57.8</b>	2.6	1.1	45.2
	70歳以上	153	64.1	<b>54.2</b>	<b>45.8</b>	<b>19.0</b>	<b>56.2</b>	3.3	2.0	<b>57.5</b>

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

## 9 食の安全性について

### (1) 食の安全性についての関心度 (問 11)

食品の安全性について関心としては、「大いに関心がある」が26.5%、「関心がある」が45.7%、「ときどき関心を持つことがある」が22.9%、これら3つを合計した関心率は95.1%です。また、「関心はない」は3.3%となっています。

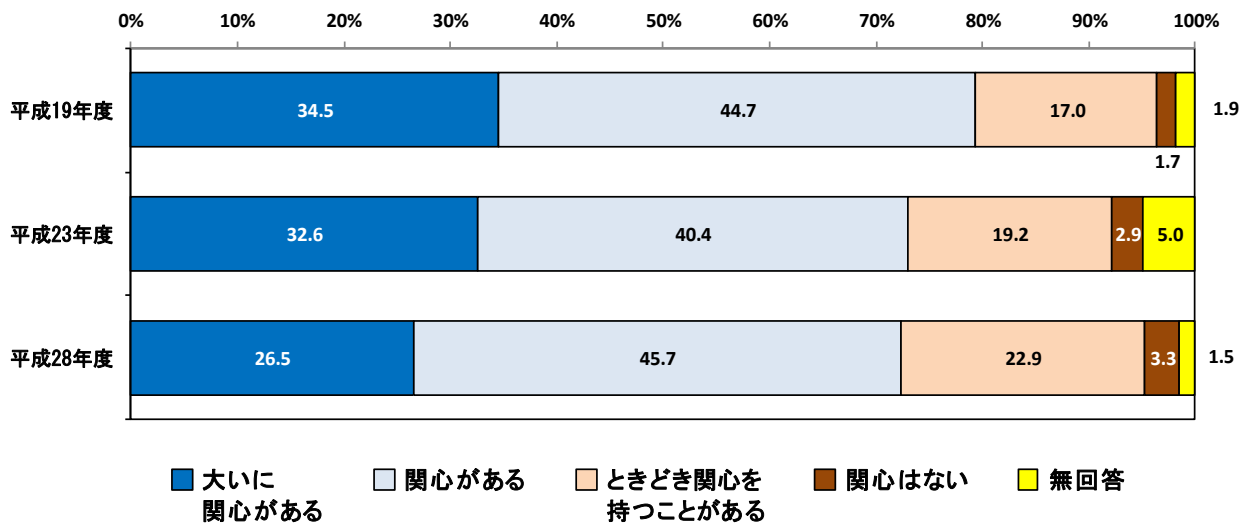
#### 【経年変化】

- 平成19年度以降、「大いに関心がある」は一貫して減少していますが、「関心がある」は平成23年度より増加し、「ときどき関心を持つことがある」も増加しています。

#### 【属性別特徴】

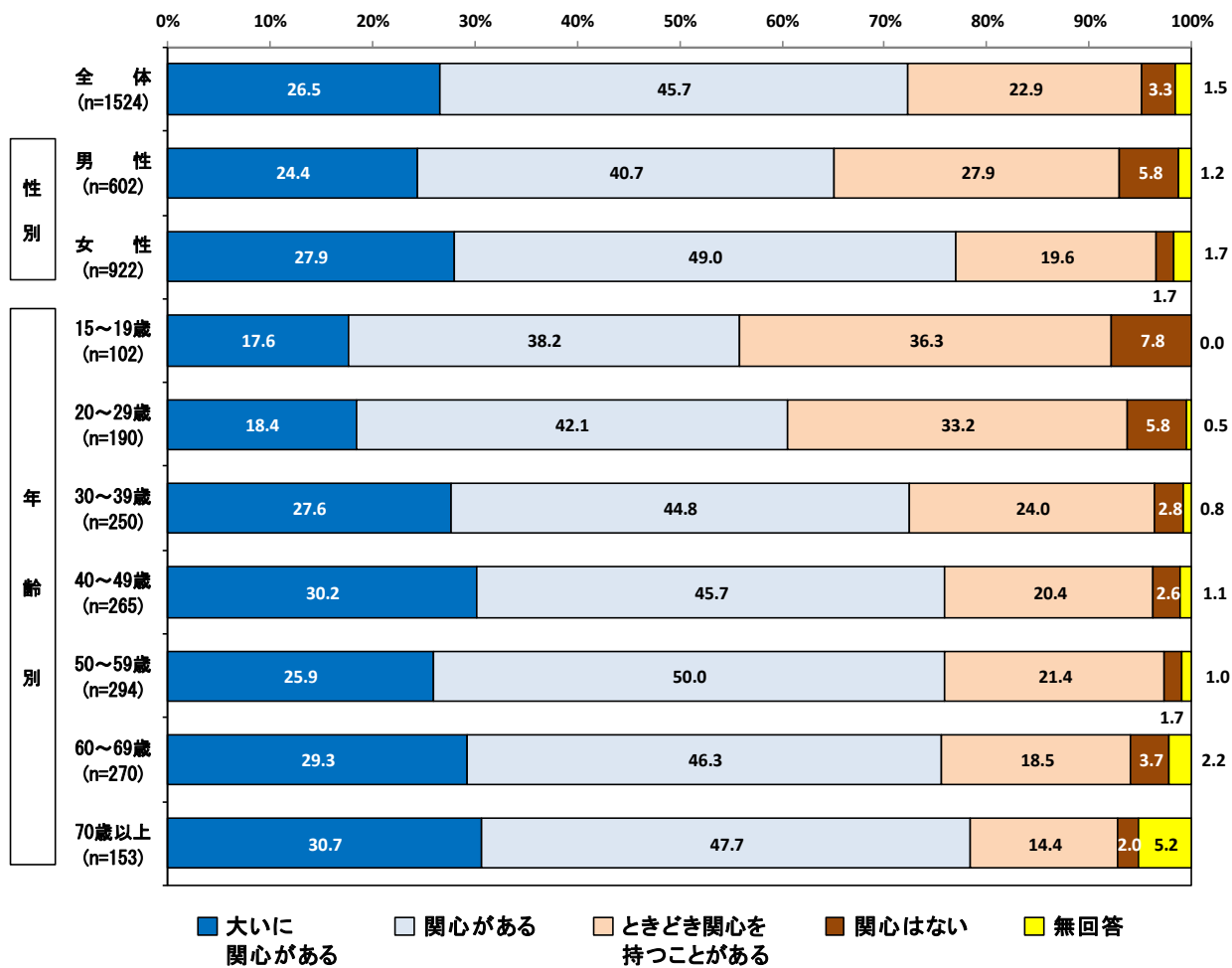
- 性別にみると、男性より女性の方が関心が高くなっています。

### 問 1 1 食品の安全性について関心がありますか。(〇はひとつ)





問 1 1 食品の安全性について関心がありますか。(〇はひとつ)



(2) 食の安全性についての関心事 (問 11-1)

食品の安全性について関心があることとしては、「農薬の残留」と「食品添加物」が 57.8%と最も多くなっています。次いで「輸入食品」(50.6%)、「食中毒」(50.2%)、「遺伝子組換え食品」(41.0%)、「食品への異物混入」(40.6%)、「飲食店等の衛生管理」(40.0%)となっています。

【経年変化】

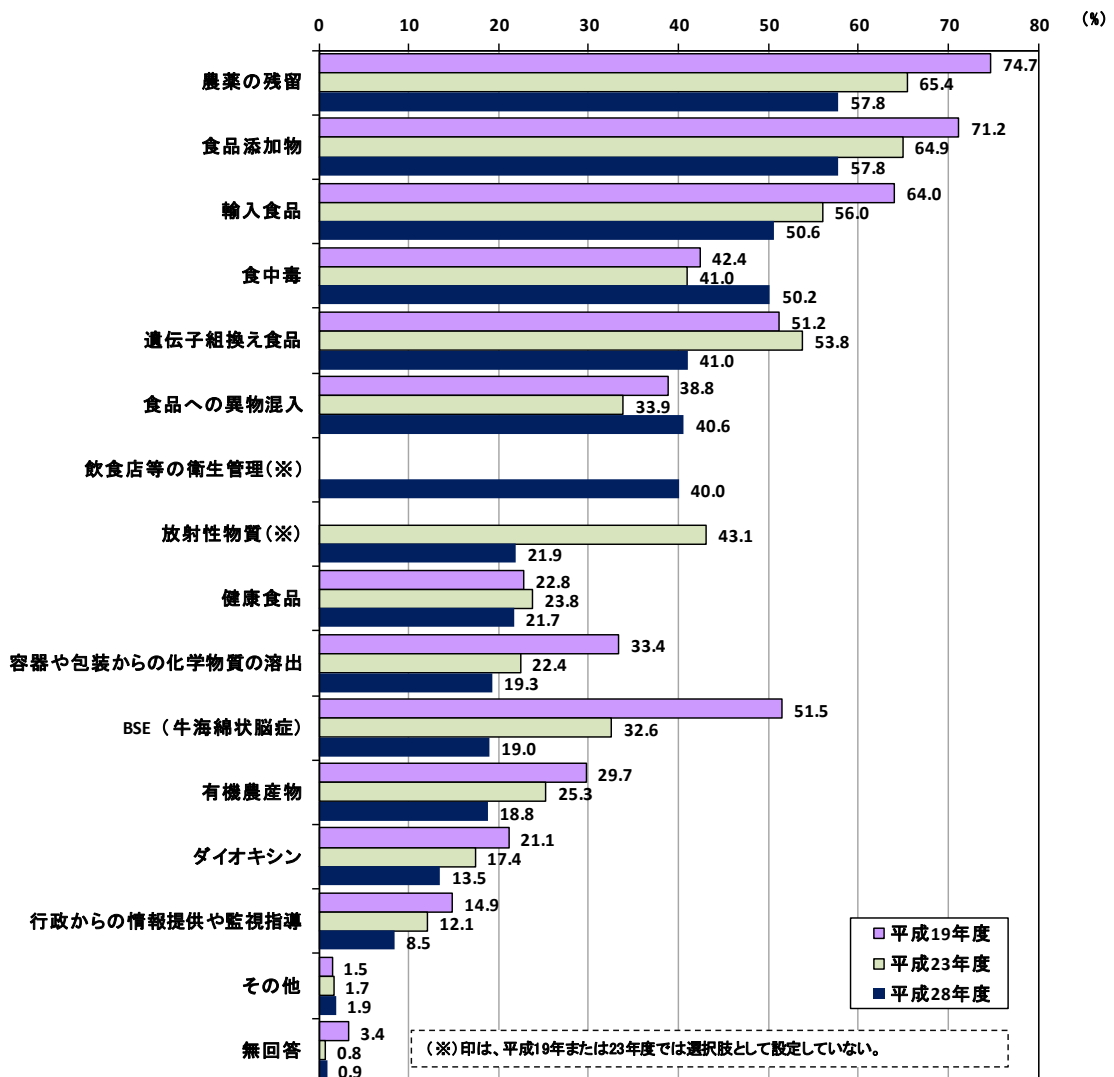
- 平成 19 年度よりも各項目の比率が少なくなっています。「BSE (牛海綿状脳症)」は平成 19 年度よりも 32.5 ポイント、「放射能」は平成 23 年度に比べ 21.2 ポイントの大幅な減少しています。また、上位 3 項目の「農薬の残留」「食品添加物」「輸入食品」についても、平成 19 年度と比べると約 13~16 ポイント減少しています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、男性では「食中毒」(55.4%)、女性では「食品添加物」(64.3%)が最も多くなっています。

問 1 1-1 問 1 1 で 1・2 に ○ をつけた方へおたずねします。

食品の安全性のどんな点に関心がありますか。(○はいくつでも)



問11-1 問11で1・2に○をつけた方へおたずねします。

食品の安全性のどんな点に関心がありますか。(○はいくつでも)

	サンプル数	遺伝子組換え食品	農薬の残留	BSE (牛海綿状脳症)	食品への異物混入	食中毒	食品添加物	容器や包装からの化学物質の溶出	ダイオキシン	健康食品	
全体	1101	41.0	57.8	19.0	40.6	50.2	57.8	19.3	13.5	21.7	
性別	男性	392	32.9	51.8	16.3	43.1	<b>55.4</b>	45.9	15.8	20.4	
	女性	709	45.4	61.1	20.5	39.2	47.4	<b>64.3</b>	21.3	22.4	
年齢別	15～19歳	57	29.8	28.1	3.5	<b>54.4</b>	54.4	47.4	17.5	7.0	26.3
	20～29歳	115	20.9	38.3	13.0	<b>52.2</b>	<b>62.6</b>	41.7	20.9	7.0	17.4
	30～39歳	181	33.7	53.0	22.7	<b>47.0</b>	<b>57.5</b>	52.5	19.9	11.0	22.1
	40～49歳	201	45.3	60.7	19.9	42.8	50.2	58.2	16.9	15.4	20.4
	50～59歳	223	<b>47.5</b>	<b>65.0</b>	23.8	35.0	45.3	58.7	19.7	<b>19.3</b>	22.4
	60～69歳	204	<b>51.0</b>	<b>67.2</b>	18.6	30.4	41.2	<b>73.0</b>	20.6	13.7	19.6
	70歳以上	120	40.0	<b>63.3</b>	16.7	37.5	50.0	57.5	19.2	12.5	<b>27.5</b>

	サンプル数	有機農産物	輸入食品	放射性物質	行政からの情報提供や監視指導	飲食店等の衛生管理	その他	無回答	
全体	1101	18.8	50.6	21.9	8.5	40.0	1.9	0.9	
性別	男性	392	14.5	48.0	17.3	10.5	35.2	3.1	1.0
	女性	709	21.2	52.0	24.4	7.5	42.6	1.3	0.8
年齢別	15～19歳	57	10.5	28.1	14.0	3.5	40.4	-	1.8
	20～29歳	115	7.0	33.9	20.0	7.0	44.3	2.6	0.9
	30～39歳	181	19.3	43.1	20.4	6.1	38.7	1.1	1.1
	40～49歳	201	19.4	53.2	24.9	10.4	40.3	2.5	-
	50～59歳	223	19.7	<b>57.4</b>	19.7	9.9	38.6	2.2	0.4
	60～69歳	204	<b>24.5</b>	<b>59.8</b>	23.5	10.8	<b>45.1</b>	2.5	0.5
	70歳以上	120	20.8	<b>55.8</b>	25.8	6.7	30.8	0.8	3.3

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 10 知っていること（問12）

知っていることとしては、「フグの肝は有毒である」（86.9%）、「食肉を十分に火を通さずに食べると、食中毒になる可能性がある」（82.2%）、「冷蔵庫は詰め過ぎると、食品が十分に冷えない」（81.7%）は80%を超え、次いで「牛レバー、豚肉（豚レバー等含む）は生食用として販売するのは禁止されている」（72.1%）となっています。

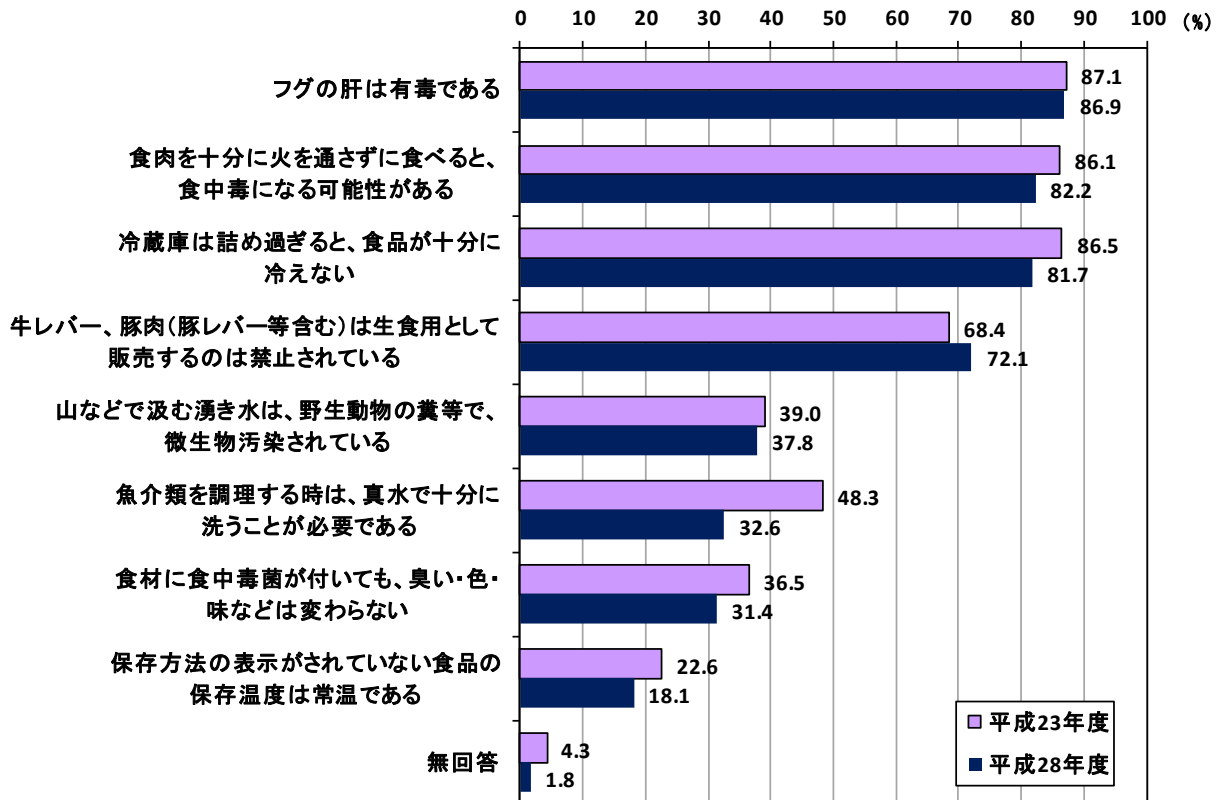
### 【経年変化】

- 「魚介類を調理する時は、真水で十分に洗うことが必要である」が平成23年度の48.3%から32.6%へ、15.7ポイント減少している以外は、平成23年度よりあまり大きな変化はみられません。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「冷蔵庫は詰め過ぎると、食品が十分に冷えない」は男性では74.6%、女性では86.2%と、性別による差が大きくなっています。

問12 次の項目のうち、知っていることはありますか。（○はいくつでも）



問12 次の項目のうち、知っていることはありますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	食材に食中毒菌が付いても、臭い・色・味などは変わらない	山の糞などで汲む湧き水は、野生動物の糞等、微生物汚染されていることがある	食肉を十分に火を通さずに食べると、食中毒になる可能性がある	牛レバー、豚肉（豚レバー等含む）は生食用として販売するのは禁止されている	フグの肝は有毒である	保存方法の表示がされていない食品の保存温度は常温である	魚介類を調理する時は、真水で十分に洗う必要がある	冷蔵庫は詰め過ぎると、食品が十分に冷えない	無回答
全体		1524	31.4	37.8	82.2	72.1	86.9	18.1	32.6	81.7	1.8
性別	男性	602	27.9	38.0	82.1	71.6	85.7	16.1	30.1	74.8	1.7
	女性	922	33.7	37.6	82.3	72.5	87.6	19.4	34.3	86.2	2.0
年齢別	15～19歳	102	23.5	37.3	84.3	51.0	78.4	18.6	23.5	56.9	3.9
	20～29歳	190	20.5	28.4	<b>87.9</b>	57.9	80.5	11.6	20.5	67.9	1.6
	30～39歳	250	33.2	42.4	86.4	<b>79.2</b>	85.2	13.6	26.0	84.8	2.0
	40～49歳	265	35.1	38.9	82.3	<b>80.8</b>	88.3	17.0	28.3	81.1	2.3
	50～59歳	294	32.3	35.0	81.6	76.2	91.8	20.4	36.1	<b>90.1</b>	1.4
	60～69歳	270	34.8	40.4	76.3	74.1	89.3	21.5	<b>40.0</b>	<b>87.8</b>	1.5
	70歳以上	153	33.3	41.2	78.4	66.0	86.9	<b>24.8</b>	<b>52.3</b>	84.3	1.3

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

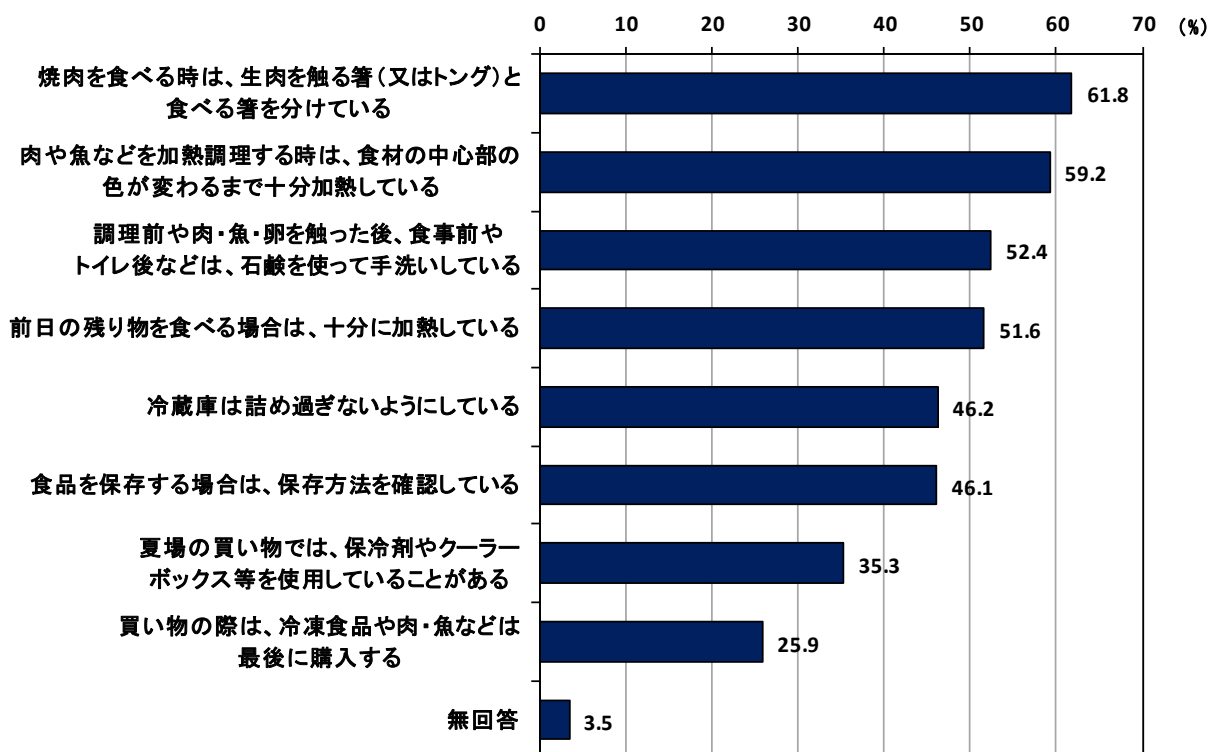
## 11 食中毒の予防のためにやっていること（問13）

食中毒を予防するためにやっていることとしては、「焼肉を食べる時は、生肉を触る箸（又はトング）と食べる箸を分けている」（61.8%）をトップに、「肉や魚などを加熱調理する時は、食材の中心部の色が変わるまで十分加熱している」（59.2%）、「調理前や肉・魚・卵を触った後、食事前やトイレ後などは、石鹸を使って手洗いしている」（52.4%）、「前日の残り物を食べる場合は、十分に加熱している」（51.6%）、「冷蔵庫は詰め過ぎないようにしている」（46.2%）、「食品を保存する場合は、保存方法を確認している」（46.1%）となっています。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、すべての面で男性より女性の方が気をつけています。中でも、「肉や魚などを加熱調理する時は、食材の中心部の色が変わるまで十分加熱している」は女性が67.4%であるのに対し、男性は46.7%と、特に差が大きくなっています。

### 問13 食中毒を予防するためにやっていることはありますか。（〇はいくつでも）



問13 食中毒を予防するために行っていることはありますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	は買物の最後は、冷凍食品や肉・魚などは最後に購入する	夏場の買い物では、保冷剤やクーラーボックス等を使用している	食品を保存する場合は、保存方法を認めている	冷蔵庫は詰め過ぎないようにしている	調理前や肉・魚・卵を触った後、食事前やトイレ後などは、石鹸を使って洗いしている	焼肉を食べる時は、生肉を触る箸(又はトング)と食べる箸を分けている	肉や魚などを加熱調理する時は、食材の中心部の色が変わるまで十分加熱している	前日の残り物を食べる場合は、十分に加熱している	無回答
全体		1524	25.9	35.3	46.1	46.2	52.4	61.8	59.2	51.6	3.5
性別	男性	602	19.4	26.9	40.0	39.7	41.9	52.3	46.7	40.4	5.3
	女性	922	30.0	<b>40.8</b>	50.1	50.4	<b>59.2</b>	<b>68.0</b>	<b>67.4</b>	<b>58.9</b>	2.3
年齢別	15～19歳	102	10.8	21.6	31.4	19.6	45.1	<b>69.6</b>	48.0	44.1	3.9
	20～29歳	190	22.6	26.8	29.5	28.9	47.9	63.2	53.7	41.6	4.2
	30～39歳	250	22.4	28.4	44.4	32.8	54.0	64.0	59.6	46.4	3.6
	40～49歳	265	29.1	<b>41.5</b>	46.4	48.3	<b>58.1</b>	<b>67.5</b>	58.5	48.3	3.0
	50～59歳	294	30.6	36.1	<b>51.7</b>	<b>53.1</b>	49.7	57.8	63.9	<b>58.8</b>	2.7
	60～69歳	270	27.8	<b>41.5</b>	<b>52.2</b>	<b>58.5</b>	48.9	56.3	<b>65.2</b>	<b>56.7</b>	3.3
	70歳以上	153	27.5	<b>43.1</b>	<b>57.5</b>	<b>68.6</b>	<b>61.4</b>	58.8	54.2	<b>60.1</b>	4.6

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 12 食中毒を予防するために食べないようにしている食事（問 14）

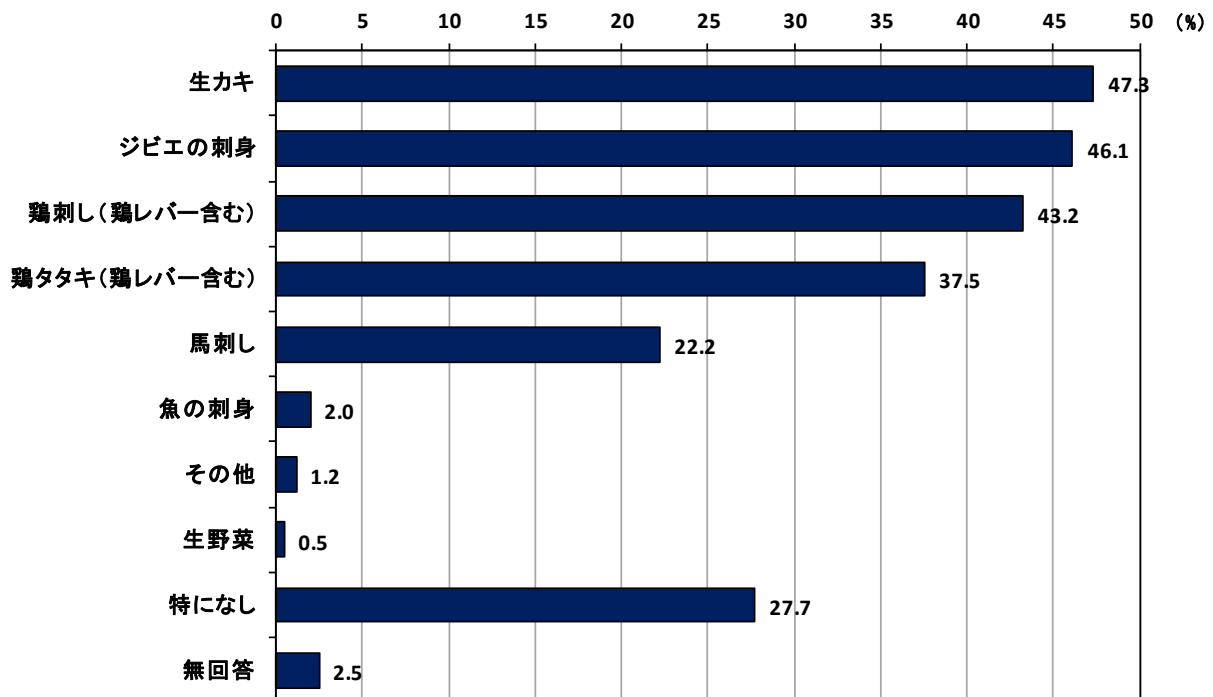
食中毒を予防するために食べないようにしている食品としては、「生カキ」（47.8%）をトップに、「ジビエの刺身」（46.1%）、「鶏刺し（鶏レバー含む）」（43.2%）、「鶏タタキ（鶏レバー含む）」（37.5%）、「馬刺し」（22.2%）となっています。

また、「特になし」は 27.7%となっています。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、男性より女性の方が全般的に食べないようにしています。
- 年齢別にみると、50歳以上で食べないようにしている割合が多くなっています。  
また、年齢が低いほど「特になし」が多くなっており、15～19歳では 48.0%と半数近くになります。

問 14 次の食品の中で、食中毒を予防するために食べないようにしている食品はありますか。（○はいくつでも）





問14 次の食品の中で、食中毒を予防するために食べないようにしている食品はありますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	鶏タタキ（鶏レバー含む）	鶏刺し（鶏レバー含む）	馬刺し	ジビエの刺身	生カキ	魚の刺身	生野菜	その他	特になし	無回答
全体		1524	37.5	43.2	22.2	46.1	47.3	2.0	0.5	1.2	27.7	2.5
性別	男性	602	29.1	34.9	14.5	41.4	40.0	2.3	0.8	0.7	32.6	3.3
	女性	922	<b>43.0</b>	<b>48.6</b>	<b>27.3</b>	49.2	52.1	1.8	0.3	1.5	24.5	2.0
年齢別	15～19歳	102	26.5	36.3	19.6	28.4	33.3	2.9	2.0	-	<b>48.0</b>	3.9
	20～29歳	190	22.1	27.4	13.7	30.0	48.9	2.1	-	1.6	<b>34.2</b>	1.1
	30～39歳	250	19.6	23.6	13.2	32.4	46.8	1.6	-	1.2	<b>37.2</b>	2.0
	40～49歳	265	32.5	38.5	19.6	42.6	46.8	2.3	0.8	1.5	<b>34.3</b>	2.6
	50～59歳	294	39.8	<b>48.6</b>	21.8	<b>51.7</b>	45.2	2.4	-	1.0	22.1	2.7
	60～69歳	270	<b>53.7</b>	<b>58.1</b>	<b>29.6</b>	<b>62.6</b>	49.6	1.1	0.7	1.1	17.4	3.0
	70歳以上	153	<b>68.6</b>	<b>70.6</b>	<b>41.8</b>	<b>66.7</b>	<b>56.2</b>	2.6	1.3	1.3	7.8	2.6

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

### 13 大分市の代表的な農産物（問 15）

大分市の代表的な農林水産物としては、「関アジ・関サバ」（90.9%）と「乾しいたけ」（78.0%）が特に多くなっています。次いで「にら」（41.4%）、「大葉」（33.9%）、「ごぼう」（33.9%）、「米」（21.9%）、「温州みかん」（20.0%）となっています。

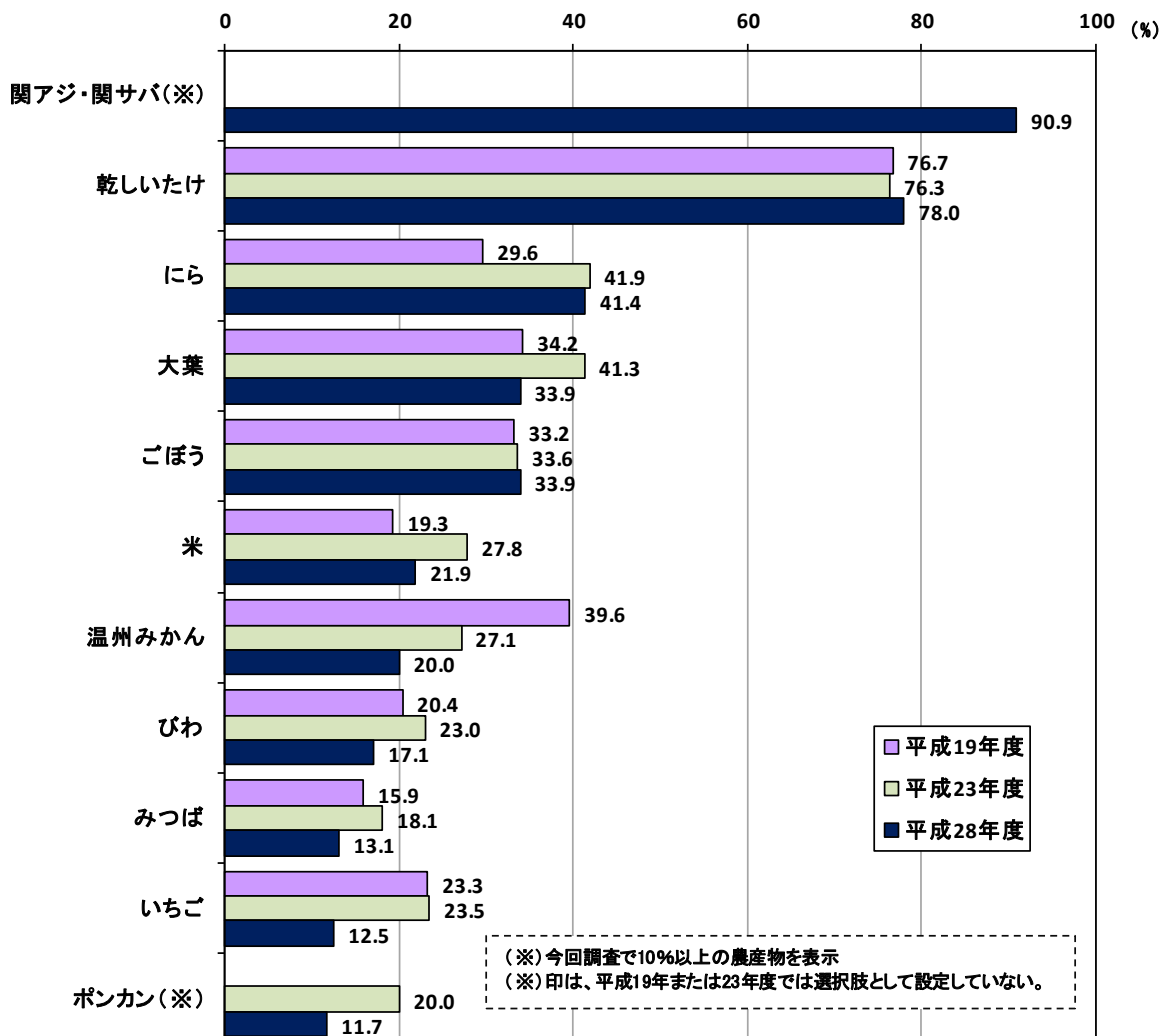
#### 【経年変化】

- 各年度で選択肢が若干異なるため、正確な比較はできませんが、「温州みかん」は平成19年度の39.6%から平成23年度は27.1%、今回は20.0%と減少傾向にあります。

#### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、「関アジ・関サバ」と「乾しいたけ」以外は、年齢が低いほど思い浮かべる割合は少なくなる傾向にあります。

問15 下記に記載している農林水産物はすべて大分市内で生産・漁獲されていますが“大分市の代表的な農林水産物”と言えば何を思い浮かべますか。（○はいくつでも）



問15 下記に記載している農林水産物はすべて大分市内で生産・漁獲されていますが、“大分市の代表的な農林水産物” と言えば何を思い浮かべますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	米	きゅうり	ミニトマト	いちご	にら	大葉	みつば	水耕せり	キャベツ	パセリ
全体		1524	21.9	6.6	7.5	12.5	41.4	33.9	13.1	5.0	4.8	2.9
性別	男性	602	20.4	5.5	5.1	10.0	38.9	31.4	12.6	4.5	5.1	2.3
	女性	922	22.8	7.3	9.1	14.2	43.1	35.6	13.3	5.3	4.6	3.3
年齢別	15～19歳	102	10.8	2.0	2.0	2.0	23.5	7.8	4.9	3.9	-	2.0
	20～29歳	190	14.7	1.1	4.7	4.7	27.4	14.2	6.8	2.6	1.6	0.5
	30～39歳	250	12.8	2.4	2.8	6.8	32.4	16.8	7.2	3.2	1.6	1.2
	40～49歳	265	19.6	3.0	5.7	10.2	38.5	28.7	12.1	4.2	2.3	1.5
	50～59歳	294	21.1	4.1	5.1	12.2	44.6	<b>44.6</b>	16.7	4.1	4.4	3.1
	60～69歳	270	<b>31.5</b>	<b>11.9</b>	12.2	<b>20.7</b>	<b>55.2</b>	<b>53.3</b>	14.1	3.7	7.4	3.7
	70歳以上	153	<b>41.2</b>	<b>24.8</b>	<b>22.2</b>	<b>28.8</b>	<b>60.1</b>	<b>58.2</b>	<b>28.8</b>	<b>17.0</b>	<b>17.6</b>	<b>9.8</b>

		カイワレ	ごぼう	温州みかん	八朔	甘夏	ポンカン	ユズ	びわ	柿	イチジク	ツキウイフルー
全体		4.5	33.9	20.0	6.6	7.2	11.7	9.6	17.1	3.0	9.8	3.0
性別	男性	4.3	27.2	16.6	5.1	7.6	8.8	9.6	14.0	3.0	8.5	1.7
	女性	4.6	38.2	22.2	7.5	6.8	13.7	9.5	19.2	3.0	10.6	3.8
年齢別	15～19歳	2.0	13.7	10.8	1.0	2.9	5.9	6.9	5.9	-	2.0	1.0
	20～29歳	1.6	16.8	12.1	2.6	1.1	5.8	7.9	6.3	1.1	2.1	1.6
	30～39歳	1.6	20.4	7.2	2.0	2.4	4.4	6.0	6.0	1.6	3.6	0.4
	40～49歳	2.3	32.5	14.0	4.5	6.0	6.0	8.7	12.5	2.6	9.1	2.3
	50～59歳	4.8	38.4	22.1	5.4	5.8	12.9	7.8	20.1	1.0	9.2	2.0
	60～69歳	6.7	<b>49.3</b>	<b>30.7</b>	11.5	11.5	<b>22.2</b>	13.0	<b>29.3</b>	5.6	<b>18.1</b>	4.4
	70歳以上	<b>13.7</b>	<b>56.9</b>	<b>44.4</b>	<b>19.6</b>	<b>22.2</b>	<b>24.2</b>	<b>18.3</b>	<b>37.3</b>	<b>9.8</b>	<b>22.2</b>	<b>10.5</b>

		すもも	乾しいたけ	茶	牛乳	パ関アジ・関サ	イサキ	マダイ	アメタ	タコ	その他	無回答
全体		1.2	78.0	9.0	9.4	90.9	6.6	4.3	3.9	5.6	6.1	1.2
性別	男性	1.2	74.9	7.1	8.8	90.2	5.8	4.5	2.8	6.0	6.0	1.2
	女性	1.2	80.0	10.2	9.9	91.3	7.2	4.1	4.6	5.4	6.2	1.2
年齢別	15～19歳	-	78.4	2.0	6.9	88.2	2.0	2.0	-	3.9	8.8	1.0
	20～29歳	-	<b>84.7</b>	3.7	6.3	90.5	0.5	1.1	1.6	2.1	10.5	1.1
	30～39歳	0.4	81.6	6.0	4.0	90.4	2.4	0.8	1.6	3.2	8.0	1.2
	40～49歳	1.1	78.9	6.0	7.2	91.7	5.3	3.4	3.8	4.2	6.8	0.4
	50～59歳	-	72.8	10.2	8.2	90.1	6.8	3.7	4.1	6.1	4.4	1.7
	60～69歳	1.9	75.9	12.6	<b>14.4</b>	93.0	11.5	7.0	6.7	8.5	3.7	1.5
	70歳以上	5.9	75.8	<b>21.6</b>	<b>21.6</b>	90.2	<b>17.6</b>	<b>13.1</b>	7.8	<b>11.8</b>	2.0	1.3

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 14 生鮮食品を購入するときに重視すること（問16）

野菜・果物・魚・肉などの生鮮食品を購入するときに重視することとしては、「新鮮さ」（88.6%）と「価格」（72.4%）が圧倒的に多くなっています。次いで「安全性」（41.7%）、「旬（季節感）」（38.7%）、「産地（ブランド）」（34.0%）となっています。

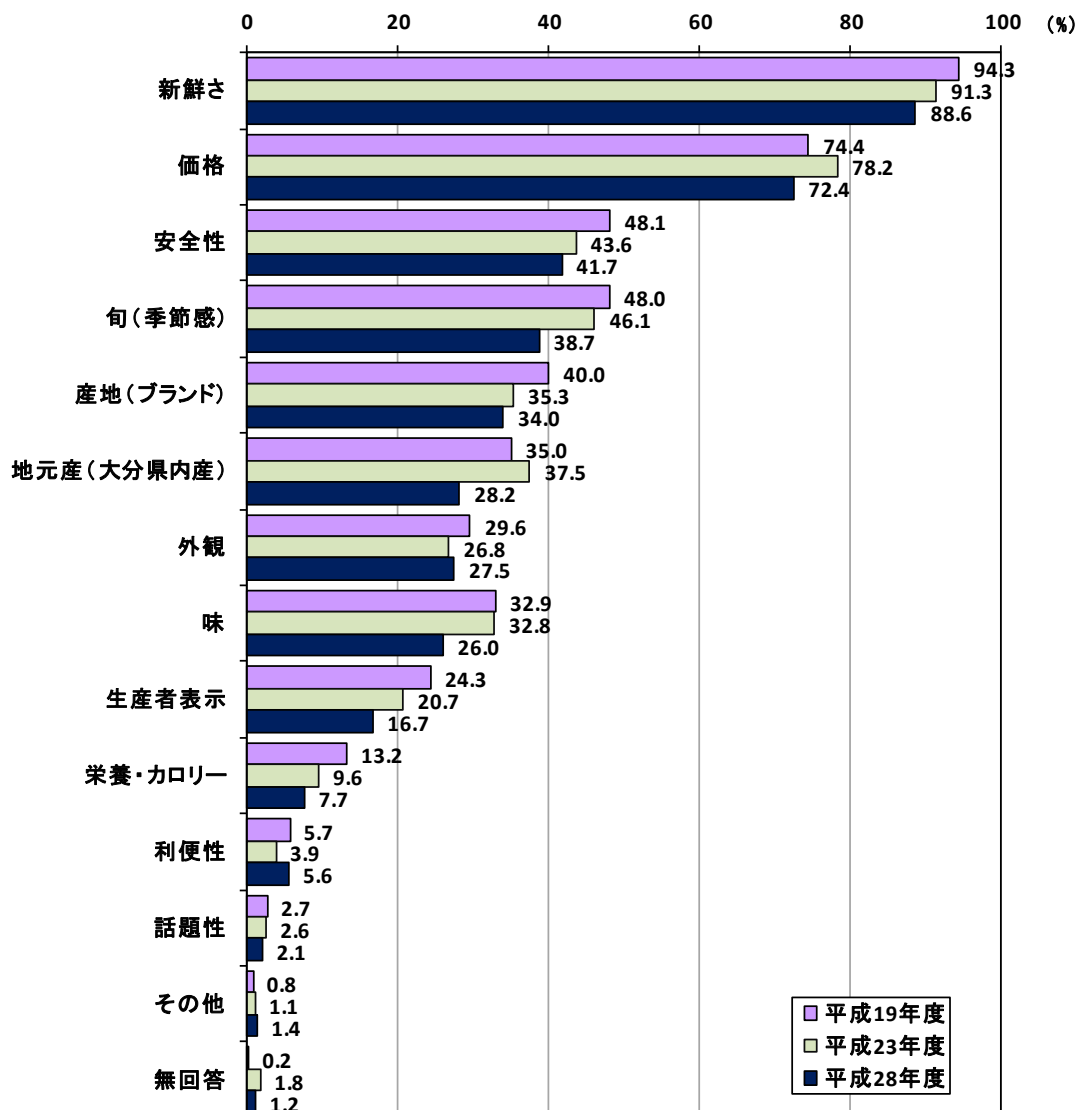
### 【経年変化】

- 平成19年度からあまり大きな変化はみられません。

### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、年齢が高いほど多くなっていることとしては、「旬（季節感）」「地元産（大分県内産）」「生産者表示」の3つがあげられます。

問16 野菜・果物・魚・肉などの生鮮食品を購入するときに、どのようなことを重視して選んでいますか。（〇はいくつでも）



問16 野菜・果物・魚・肉などの生鮮食品を購入するとき、どのようなことを重視して選んでいますか。(〇はいくつでも)

	サンプル数	新鮮さ	味	外観	価格	産地(ブランド)	旬(季節感)	生産者表示	安全性	栄養・カロリー	利便性	話題性	地元産(大分県内産)	その他	無回答	
全体	1524	88.6	26.0	27.5	72.4	34.0	38.7	16.7	41.7	7.7	5.6	2.1	28.2	1.4	1.2	
性別	男性	602	83.2	23.8	28.2	66.3	29.1	26.7	12.8	36.5	5.8	5.1	1.8	22.9	1.2	1.8
	女性	922	92.2	27.4	27.0	76.4	37.2	<b>46.5</b>	19.3	45.0	9.0	5.9	2.3	31.7	1.6	0.9
年齢別	15~19歳	102	76.5	30.4	23.5	64.7	25.5	23.5	7.8	42.2	10.8	4.9	5.9	11.8	2.0	2.0
	20~29歳	190	80.0	22.1	32.1	74.2	34.7	28.9	10.0	37.9	7.9	4.7	1.6	16.8	4.2	1.1
	30~39歳	250	84.0	24.0	<b>33.2</b>	74.8	38.0	35.6	13.2	36.4	5.2	6.0	0.4	20.4	1.6	1.2
	40~49歳	265	89.8	23.4	29.1	74.7	35.8	36.6	15.1	38.5	4.9	6.4	2.3	27.9	1.1	0.4
	50~59歳	294	93.2	27.6	26.5	73.5	35.4	39.8	18.0	43.2	6.8	6.8	1.7	30.6	0.3	0.7
	60~69歳	270	<b>95.2</b>	28.5	24.8	71.1	32.2	<b>48.1</b>	21.1	45.6	11.1	3.7	1.5	<b>35.9</b>	1.1	1.9
	70歳以上	153	92.8	28.1	19.0	67.3	29.4	<b>51.0</b>	<b>29.4</b>	<b>50.3</b>	10.5	5.9	4.6	<b>48.4</b>	0.7	2.6

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

15 生鮮食品の購入施設（問 17）

生鮮食品の購入場所としては、「百貨店・スーパーマーケット」（73.6%）と「直販所（百貨店・スーパーマーケットの産直コーナーを含む）」（58.7%）の2つが圧倒的に多くなっています。

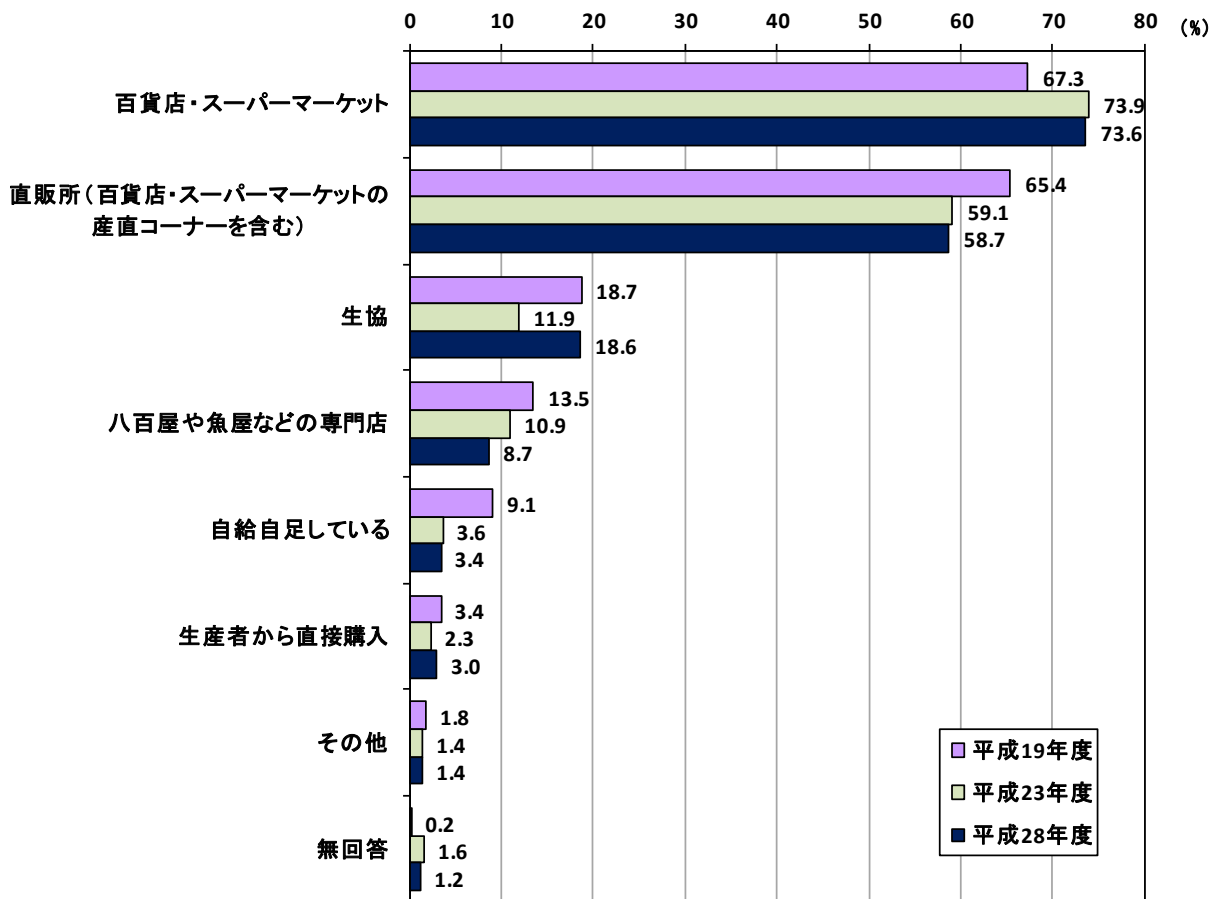
【経年変化】

- 平成 19 年度からあまり大きな変化はみられません。

【属性別特徴】

- 年齢別にみると、「直販所（百貨店・スーパーマーケットの産直コーナーを含む）」は 40 歳以上の年齢層では 60%を超えています。

問 17 生鮮食品を主にどこで購入していますか。（○は2つまで）



問17 生鮮食品を主にどこで購入していますか。(〇は2つまで)

		サンプル数	店 八百屋や魚屋などの専門	コーナーマーケットを含む)	直販所(百貨店・スーパーマーケット)	百貨店・スーパーマーケット	生協	生産者から直接購入	自給自足している	その他	無回答
全体		1524	8.7	58.7	73.6	18.6	3.0	3.4	1.4	1.2	
性別	男性	602	9.6	49.7	74.1	16.4	3.7	3.2	1.7	1.5	
	女性	922	8.0	<b>64.6</b>	73.3	20.1	2.5	3.6	1.3	1.1	
年齢別	15~19歳	102	5.9	45.1	67.6	18.6	2.0	2.0	2.9	1.0	
	20~29歳	190	7.9	46.3	<b>78.9</b>	13.2	1.1	1.1	1.6	1.1	
	30~39歳	250	7.6	54.4	<b>83.2</b>	12.0	2.8	4.0	1.2	0.8	
	40~49歳	265	6.0	<b>64.2</b>	77.7	15.1	1.5	2.3	1.5	0.8	
	50~59歳	294	10.2	63.3	72.1	20.1	3.1	3.1	1.7	0.3	
	60~69歳	270	9.6	<b>64.4</b>	68.5	<b>26.3</b>	4.8	5.6	-	2.6	
	70歳以上	153	13.1	62.1	60.1	<b>26.1</b>	5.2	5.2	2.6	2.6	

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 16 地元農産物の購入について（問 18）

地元産の農産物等の購入については、「積極的に市内産や県内産のものを購入している」が 32.3%、「国内産のものは購入するようにしているが、地元産かどうかまでは気にしていない」が 51.8%、「産地を気にしていない」が 13.3%となっています。

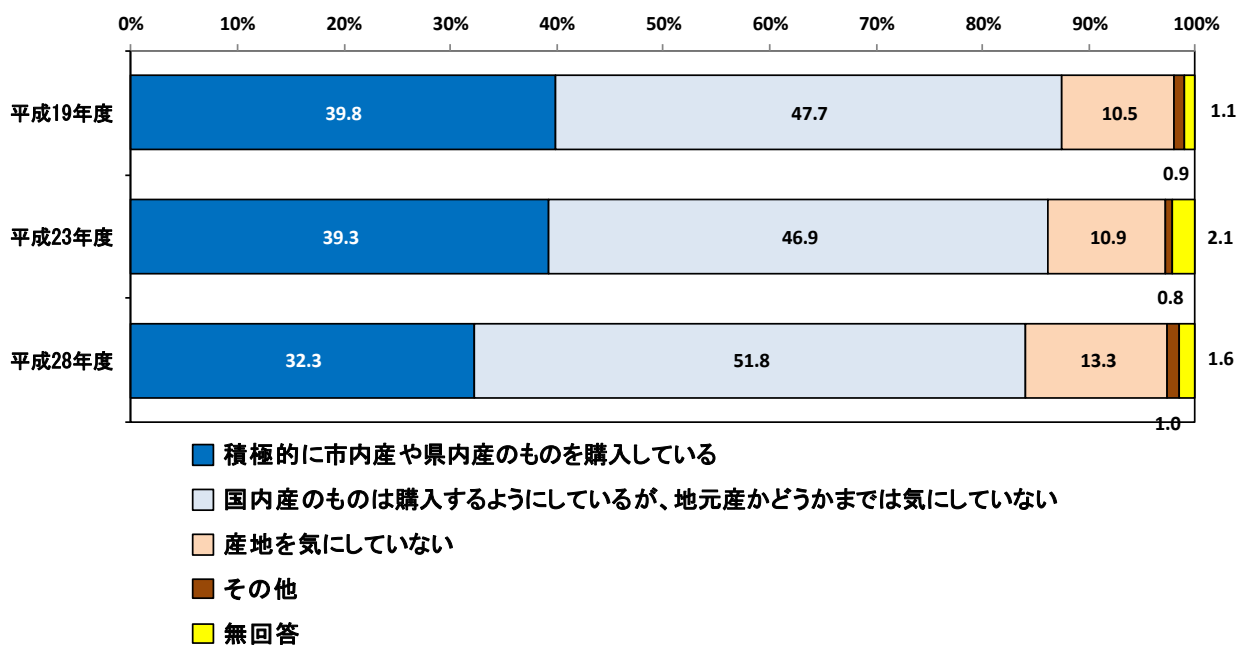
### 【経年変化】

- 「積極的に市内産や県内産のものを購入している」は減少しており、平成 23 年度の 39.8%に比べると 7.5 ポイント減少し、32.3%となっている。その一方で、「国内産のものは購入するようにしているが、地元産かどうかまでは気にしていない」は、平成 23 年度の 46.9%から 4.9 ポイント増加し、51.8%と半数を超えるようになっています。

### 【属性別特徴】

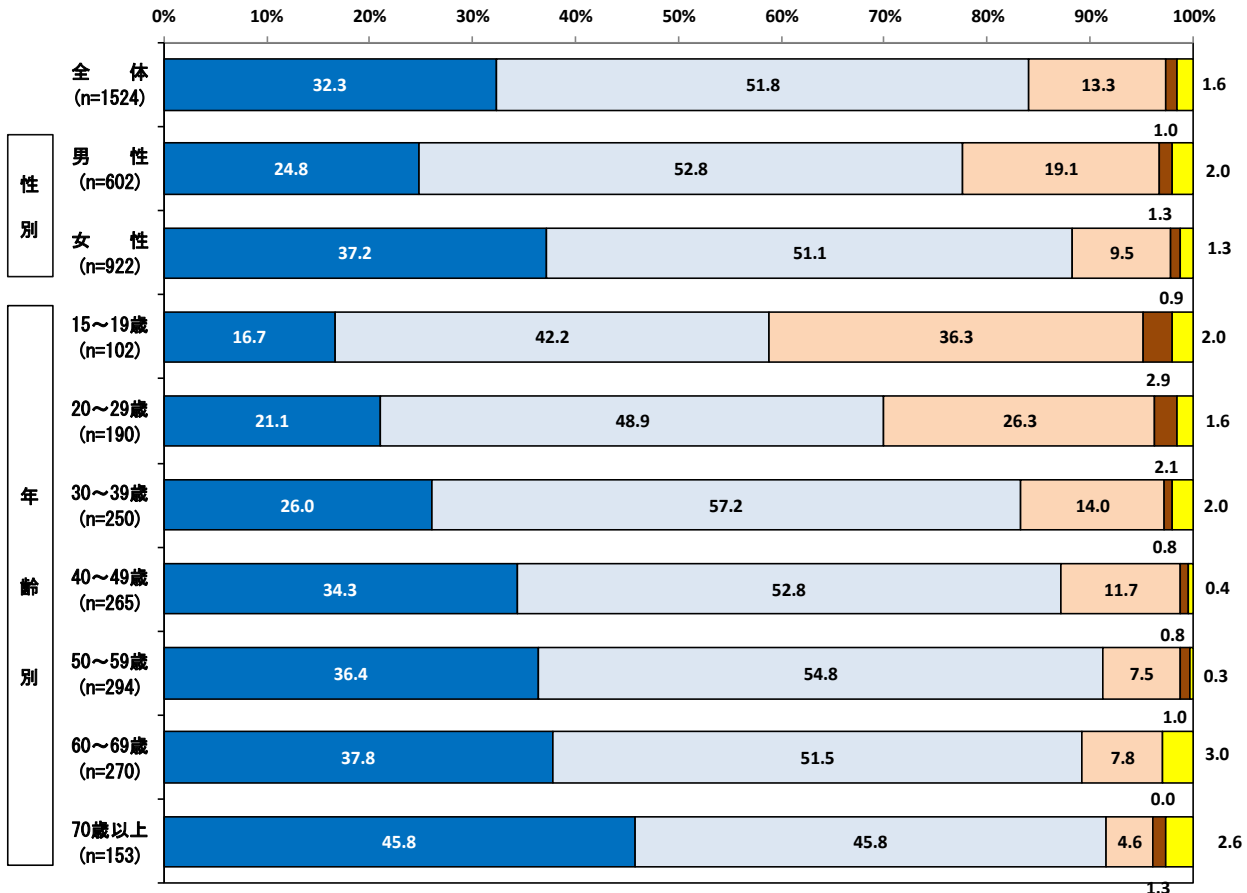
- 性別にみると、女性の方が地元産農産物の購入意識が強くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど地元産農産物の購入意識が強くなっています。

### 問 18 地元産の農産物等を意識して購入していますか。（○はひとつ）





問 18 地元産の農産物等を意識して購入していますか。(〇はひとつ)



- 積極的に市内産や県内産のものを購入している
- 国内産のものは購入するようにしているが、地元産かどうかまでは気にしていない
- 産地を気にしていない
- その他
- 無回答

## 17 米粉を使用した料理について（問 19）

米粉を使用した料理(パン・洋菓子・麺等)の飲食頻度をみると、「よく食べる（1か月に1～2回以上）」が15.2%、「時々食べる（2か月に1回以上）」が24.0%、「あまり食べない（半年に1回以上）」が42.3%、「全く食べない」が17.5%となっています。

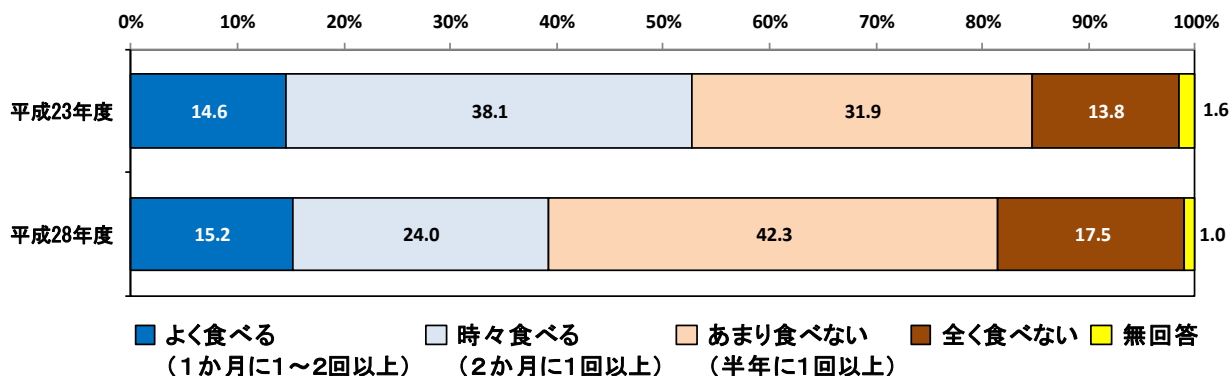
### 【経年変化】

- 「よく食べる」には変化がありませんが、「時々食べる（2か月に1回以上）」は平成23年度の38.1%から14.1ポイント減少し、24.0%となっています。

### 【属性別特徴】

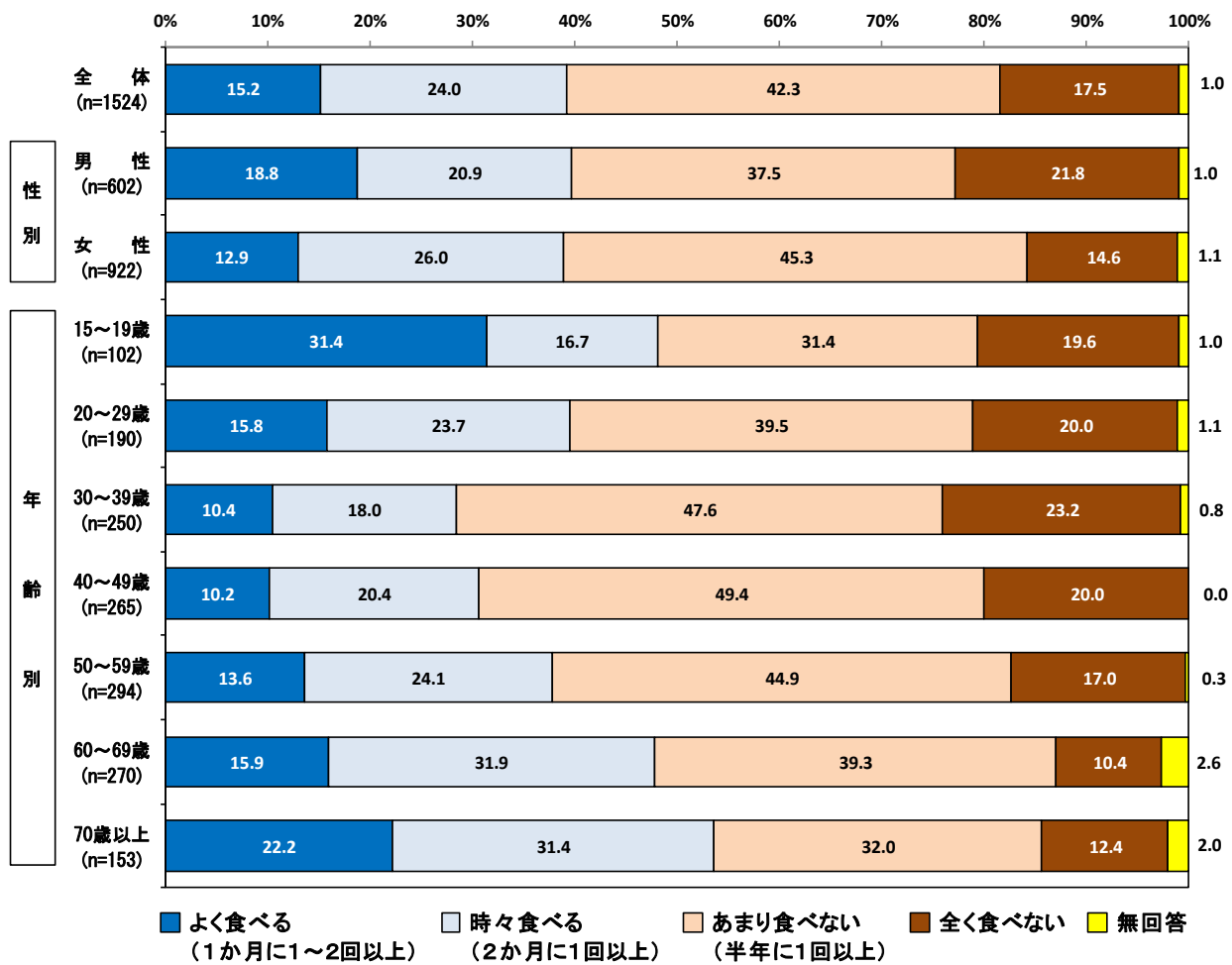
- 年齢別にみると、「よく食べる」は15～19歳が31.4%と最も多く、30～39歳で10.4%、40～49歳で10.2%と少なく、50歳以上では年齢が高くなるほど多くなり、70歳以上では22.2%となっています。

### 問19 米粉を使用した料理(パン・洋菓子・麺等)をどのくらい食べますか。(○はひとつ)



※平成23年度の調査では、各選択肢に回数の提示はしていない。

問19 米粉を使用した料理(パン・洋菓子・麺等)をどのくらい食べますか。(〇はひとつ)



18 地産地消への関わり方（問 19）

（1）地産地消への関わり方（問 20）

地産地消の推進するための関わり方としては、「市内産物を積極的に購入することで、市内の農林水産業を応援した」が40.0%と最も多くなっています。次いで「機会があれば体験してみたい」(39.6%)、「家庭園芸・市民農園などを趣味としてやってみたい」(23.1%)となっています。

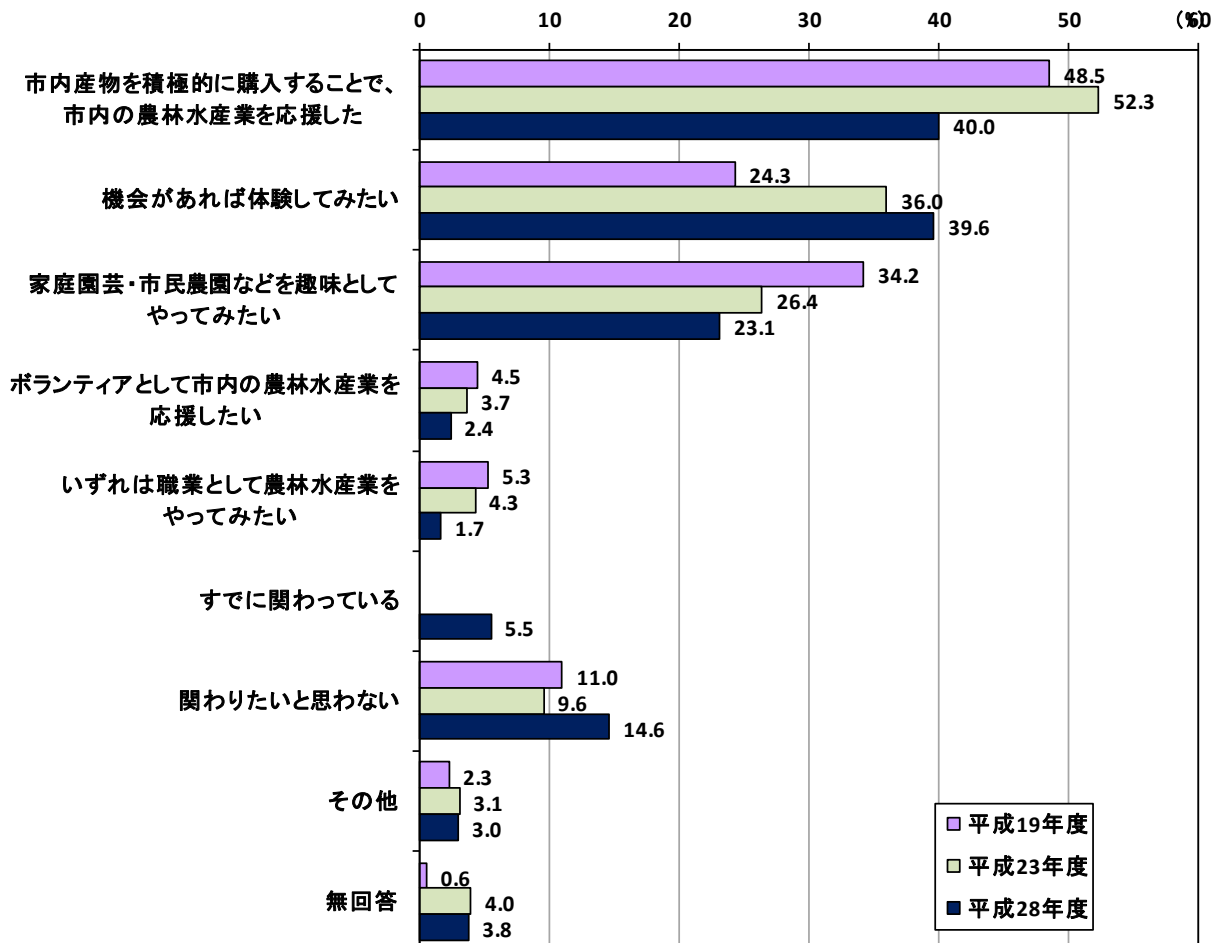
【経年変化】

- 「市内産物を積極的に購入することで、市内の農林水産業を応援した」や「家庭園芸・市民農園などを趣味としてやってみたい」は減少していますが、「機会があれば体験してみたい」は平成 19 年度 24.3%、平成 23 年度 36.0%、今回 39.6%と増加しています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、女性では「機会があれば体験してみたい」が43.9%と最も多くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下の年齢の低い層で「機会があれば体験してみたい」が多くなっています。

問 20 地産地消を進めていくためには、農林水産業への理解を深める必要がありますが、どのように関わっていききたいと思いますか。（〇はいくつでも）



問20 地産地消を進めていくためには、農林水産業への理解を深める必要がありますが、どのように関わっていきたいと思いますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	機会があれば体験してみたい	家庭園芸・市民農園などに興味としてやってみたい	市内産物を積極的に購入する中で、市内の農林水産業を応援した	ボランティアとして市内の農林水産業を応援したい	いずれは職業として農林水産業をやってみたい	すでに関わっている	関わりたいと思わない	その他	無回答
全体		1524	39.6	23.1	40.0	2.4	1.7	5.5	14.6	3.0	3.8
性別	男性	602	32.9	20.6	34.7	2.8	3.2	7.0	18.1	3.8	4.2
	女性	922	43.9	24.7	43.4	2.2	0.8	4.6	12.4	2.4	3.6
年齢別	15～19歳	102	<b>54.9</b>	22.5	13.7	3.9	2.0	3.9	<b>22.5</b>	4.9	2.0
	20～29歳	190	<b>46.8</b>	25.8	30.0	3.7	2.1	2.1	<b>20.0</b>	3.2	2.1
	30～39歳	250	<b>48.0</b>	23.6	36.8	2.8	3.2	5.2	15.2	0.8	2.0
	40～49歳	265	40.4	23.8	<b>46.8</b>	3.4	1.9	5.3	13.6	1.5	0.4
	50～59歳	294	35.4	23.5	44.9	2.0	2.0	6.1	12.6	3.1	3.7
	60～69歳	270	32.6	20.7	<b>47.8</b>	1.5	-	7.0	11.9	4.1	5.9
	70歳以上	153	25.5	21.6	39.9	-	0.7	7.8	12.4	5.2	12.4

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## (2) 体験してみたいこと (問 20 副問)

体験してみたい内容としては、「果樹や野菜の収穫・栽培」(59.0%)と「農産物加工(ジャム・豆腐づくり等)」(48.6%)が多くなっています。

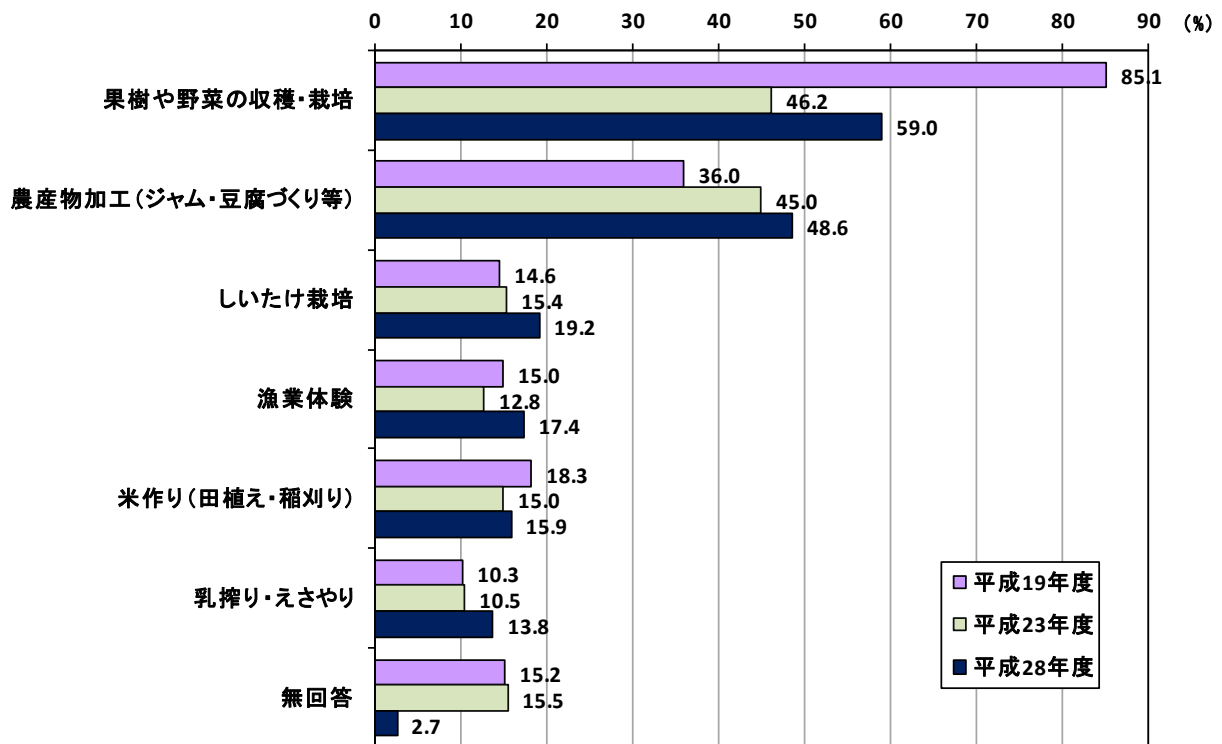
### 【経年変化】

- これまで同様、「果樹や野菜の収穫・栽培」と「農産物加工(ジャム・豆腐づくり等)」の2つが多くなっていますが、「農産物加工(ジャム・豆腐づくり等)」は増加傾向にあります。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、男性では「漁業体験」が32.8%と2番目に多くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下の年齢の低い層では「乳搾り・えさやり」も多くなっています。

問 20 副問 (問 20 で 1 に ○) 体験してみたい内容を下から選んでください。



問20副問（問20で1に○）体験してみたい内容を下から選んでください。

		サンプル数	果樹や野菜の収穫・栽培	米作り（田植え・稲刈り）	しいたけ栽培	農産物加工（ジャム・豆腐づくり等）	乳搾り・えさやり	漁業体験	無回答
全体		603	59.0	15.9	19.2	48.6	13.8	17.4	2.7
性別	男性	198	51.5	20.2	23.2	31.3	13.1	<b>32.8</b>	4.5
	女性	405	62.7	13.8	17.3	<b>57.0</b>	14.1	9.9	1.7
年齢別	15～19歳	56	55.4	16.1	17.9	44.6	<b>25.0</b>	<b>37.5</b>	3.6
	20～29歳	89	53.9	18.0	19.1	44.9	<b>21.3</b>	18.0	2.2
	30～39歳	120	51.7	<b>25.8</b>	19.2	50.8	<b>23.3</b>	20.8	1.7
	40～49歳	107	63.6	19.6	18.7	53.3	9.3	16.8	0.9
	50～59歳	104	60.6	8.7	16.3	50.0	6.7	10.6	5.8
	60～69歳	88	<b>67.0</b>	8.0	<b>25.0</b>	50.0	5.7	11.4	2.3
	70歳以上	39	<b>64.1</b>	7.7	17.9	35.9	-	10.3	2.6

（注）**太字**は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

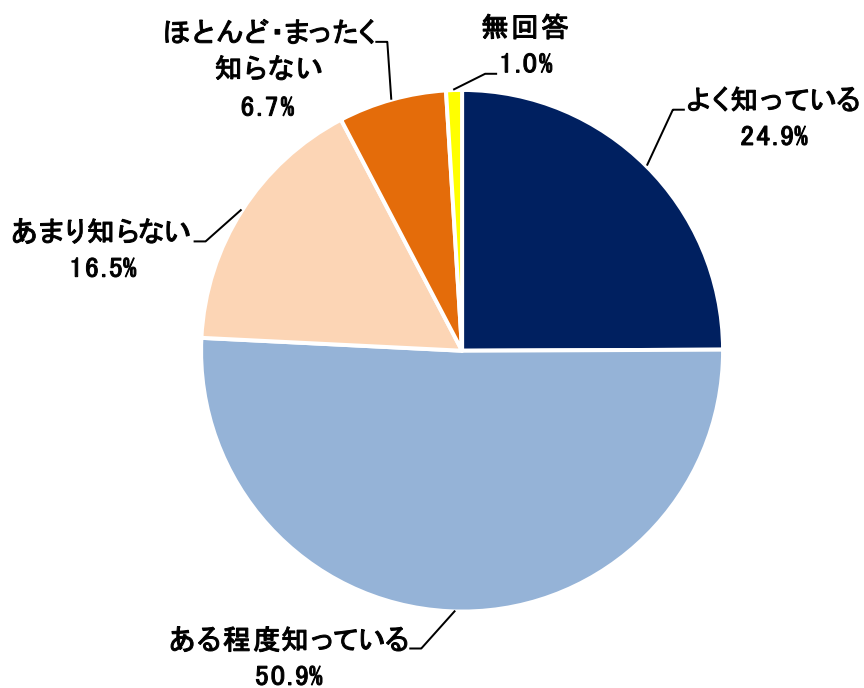
## 19 食品ロスについて（問 21）

食品ロスについては、「よく知っている」が 24.9%、「ある程度知っている」が 50.9%、合計すると認知率は 75.8%です。また、「あまり知らない」は 16.5%、「ほとんど・まったく知らない」は 6.7%となっています。

### 【属性別特徴】

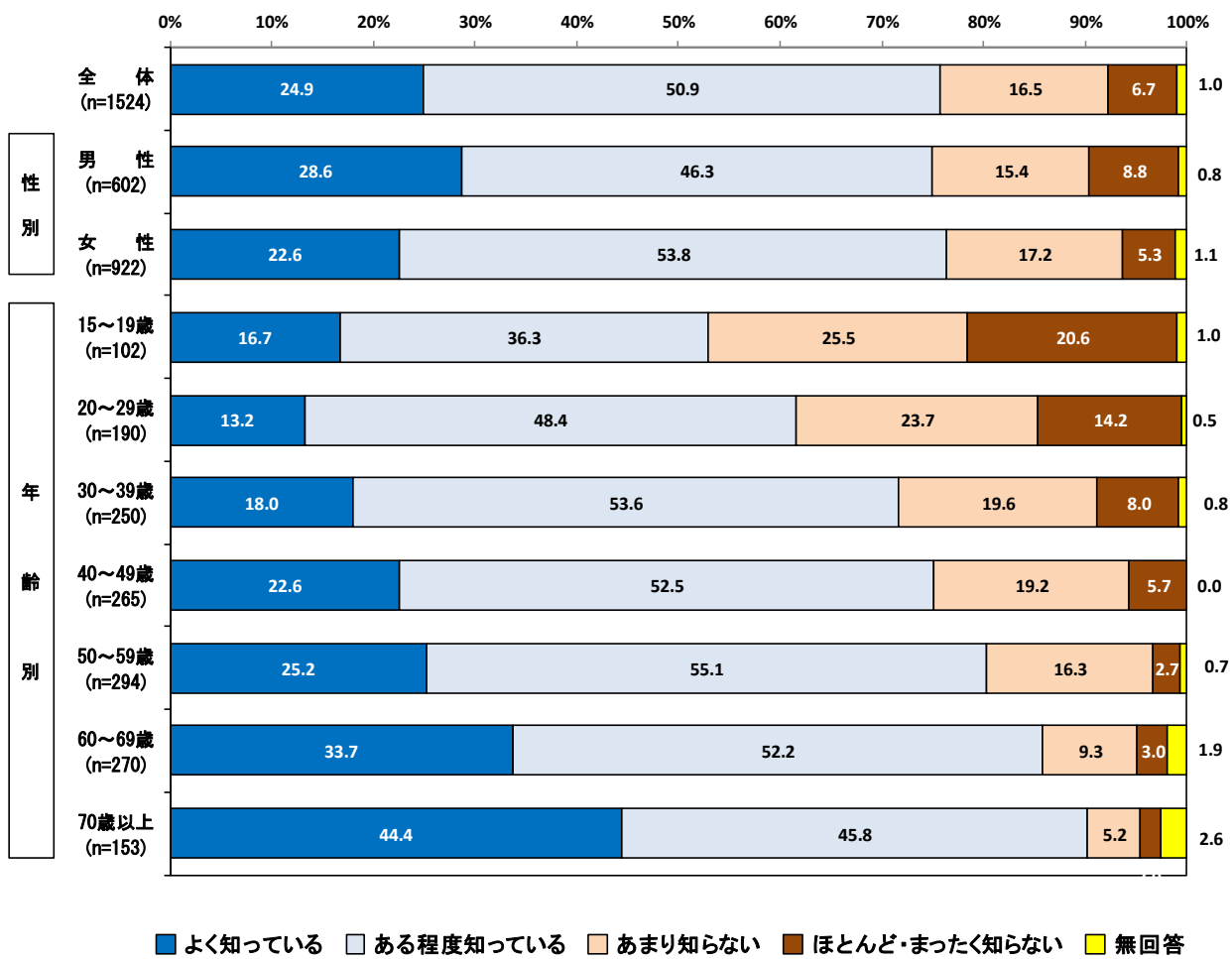
- 性別にみると、「よく知っている」は男性が 28.6%、女性が 22.6%と、男性の方が多くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高いほど食品ロスに対する認知率は高くなっています。

問 2 1 「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。（○はひとつ）





問 2 1 「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。(〇はひとつ)



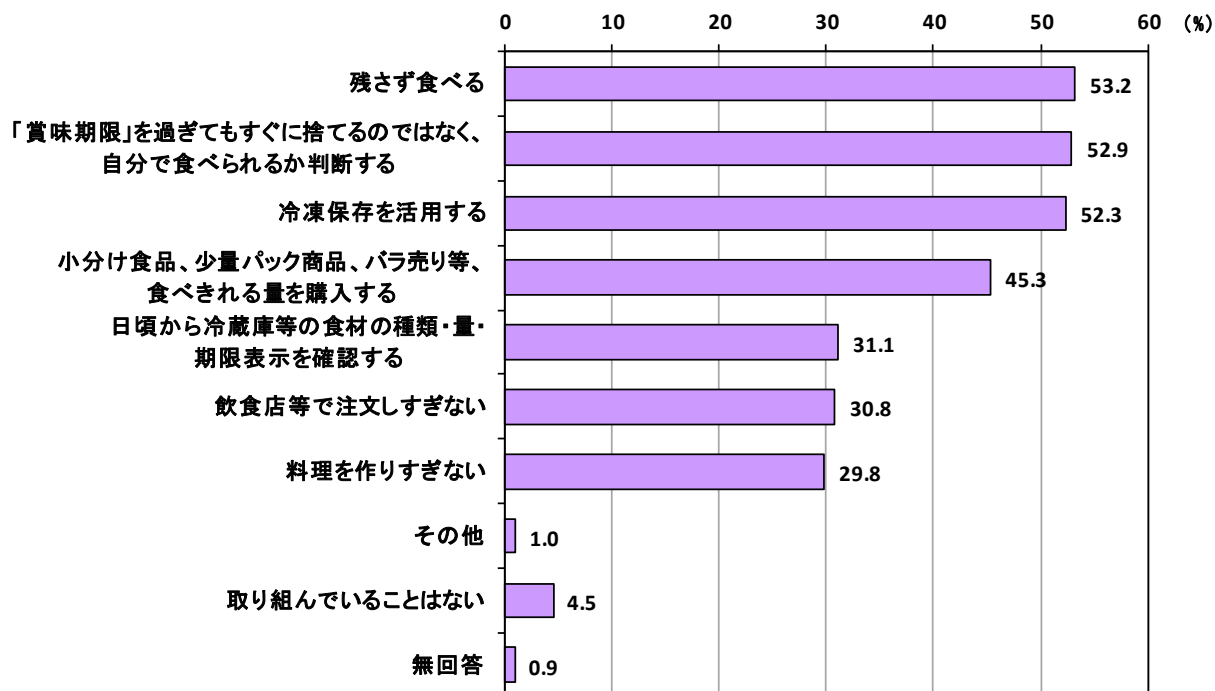
## 20 食品ロスを軽減するための取組（問22）

「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることとしては、「残さず食べる」（53.2%）、「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」（52.9%）、「冷凍保存を活用する」（52.3%）が50%台で並んでいます。次いで「小分け食品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」（45.3%）となっています。

### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど、取組の多くで取り組んでいる割合が多くなっています。

問22 「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。（〇はいくつでも）



問22 「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	小分け食品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する	冷凍保存を活用する	料理を作りすぎない	飲食店等で注文しすぎない	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	残さず食べる	「賞味期限」を過ぎてもすぐ捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	その他	取り組んでいることはない	無回答
全体		1524	45.3	52.3	29.8	30.8	31.1	53.2	52.9	1.0	4.5	0.9
性別	男性	602	38.2	41.2	25.9	29.2	22.4	56.3	45.0	0.8	6.5	1.3
	女性	922	50.0	<b>59.5</b>	32.3	31.9	<b>36.8</b>	51.2	<b>58.0</b>	1.1	3.1	0.7
年齢別	15～19歳	102	20.6	28.4	15.7	29.4	15.7	<b>60.8</b>	34.3	-	<b>14.7</b>	-
	20～29歳	190	36.8	44.7	21.1	34.2	23.7	57.4	41.6	1.1	8.4	-
	30～39歳	250	44.4	48.4	24.4	34.8	28.8	55.6	54.0	0.8	4.4	0.8
	40～49歳	265	44.2	53.2	29.8	33.2	30.9	<b>60.8</b>	51.7	1.1	3.0	0.4
	50～59歳	294	<b>51.4</b>	54.4	33.0	33.0	33.0	52.7	<b>58.2</b>	0.3	2.0	0.3
	60～69歳	270	<b>52.2</b>	<b>61.5</b>	<b>37.4</b>	25.9	<b>36.7</b>	43.7	<b>58.5</b>	1.1	3.0	1.9
	70歳以上	153	<b>52.3</b>	<b>62.1</b>	<b>39.2</b>	21.6	<b>41.2</b>	43.8	<b>59.5</b>	2.6	2.6	3.3

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

## 21 伝統料理への関心（問 23）

食文化や各地に伝わる伝統料理に対する関心についてみると、「関心がある」が 23.1%、「少し関心がある」が 46.5%、合計した関心率は 69.6%となっています。また、「あまり関心がない」は 25.1%、「全く関心がない」は 3.8%となっています。

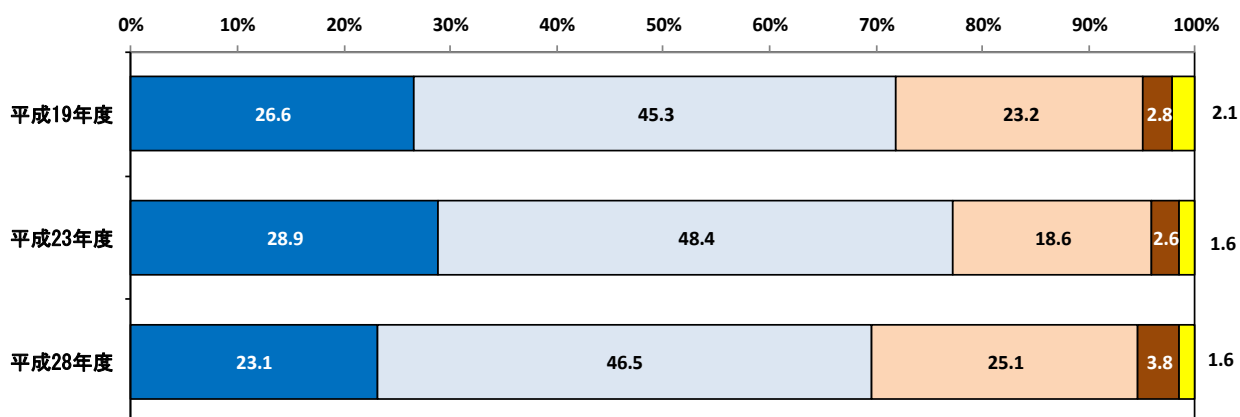
### 【経年変化】

- 平成 19 年度から平成 23 年度には関心率が増加しましたが、今回は平成 23 年度より 7.7 ポイント減少し、69.6%となっています。

### 【属性別特徴】

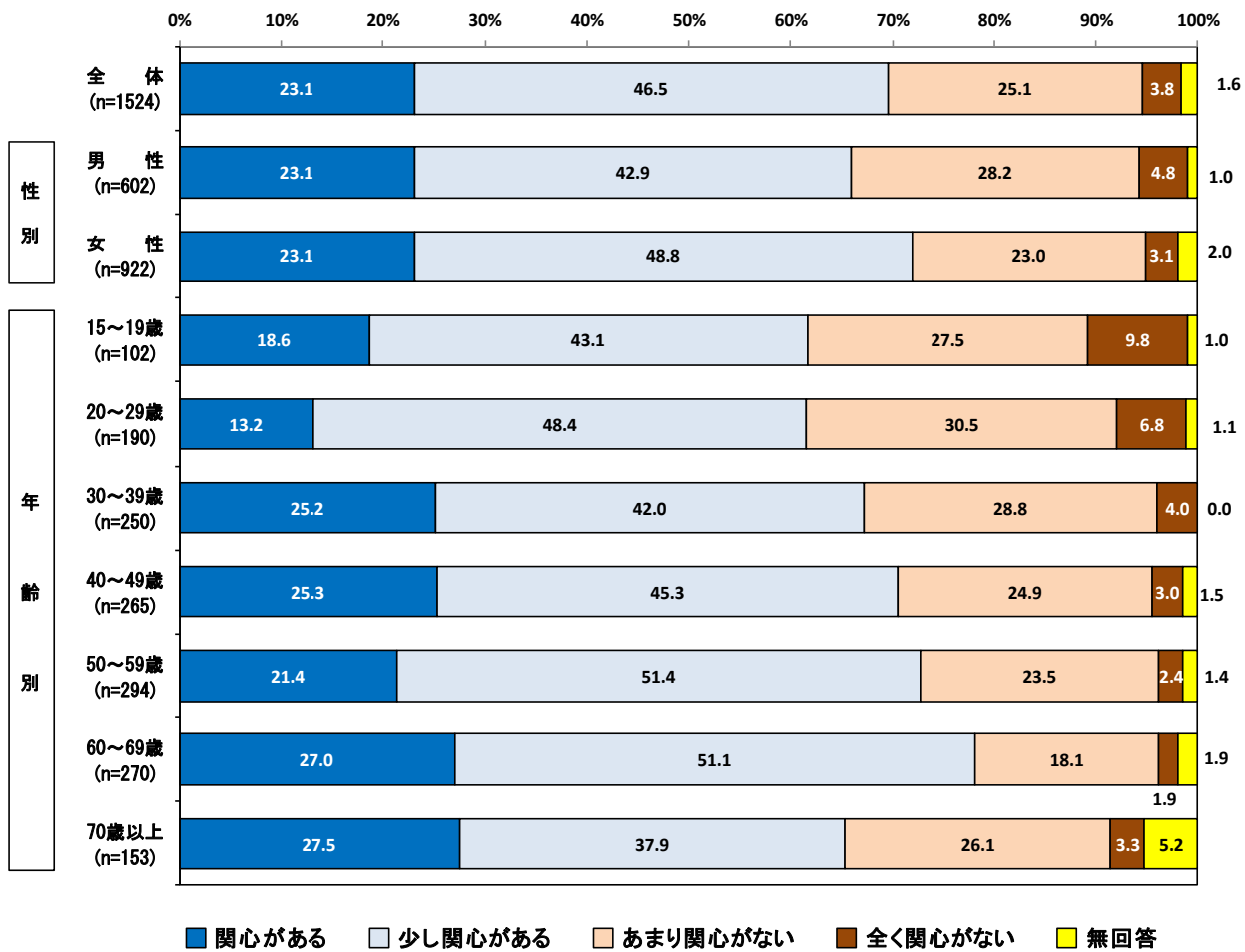
- 年齢別にみると、70 歳以上を除くと、年齢が高くなるほど関心率も多くなっています。

問 23 食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。（○はひとつ）



■ 関心がある ■ 少し関心がある ■ あまり関心がない ■ 全く関心がない ■ 無回答

問23 食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。(〇はひとつ)



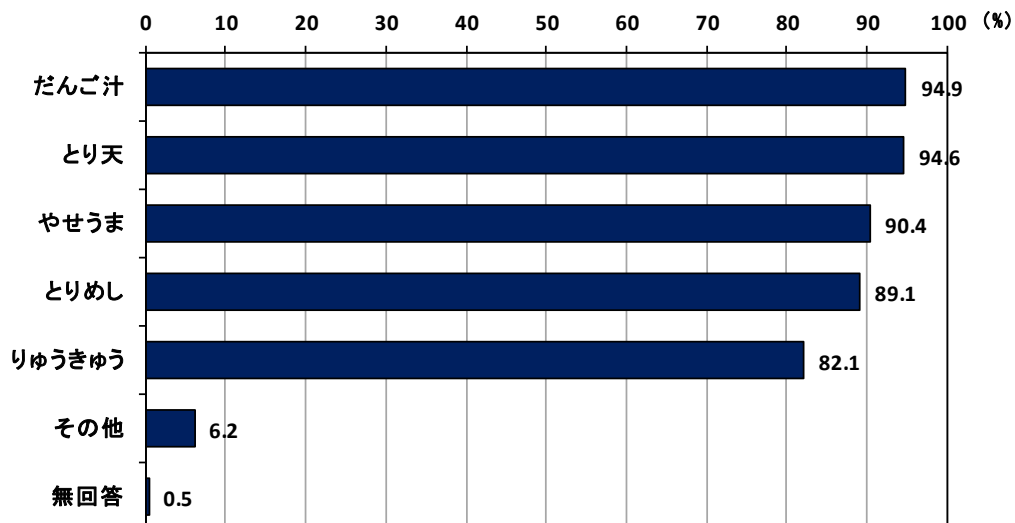
## 22 知っている大分の郷土料理（問 24）

知っている“おおいたの郷土料理”としては、「だんご汁」が94.9%、「とり天」が94.6%、「やせうま」が90.4%、「とりめし」が89.1%、「りゅうきゅう」が82.1%となっています。

### 【属性別特徴】

- 性別、年齢別にみると、性別、年齢を問わず“おおいたの郷土料理”の認知率は多くなっています。

問 2 4 知っている“おおいたの郷土料理”はどれですか。（○はいくつでも）



問24 知っている“おおいたの郷土料理”はどれですか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	だんご汁	やせうま	とり天	とりめし	りゅうきゅう	その他	無回答
全体		1524	94.9	90.4	94.6	89.1	82.1	6.2	0.5
性別	男性	602	90.9	84.1	91.9	85.5	76.2	5.6	0.8
	女性	922	97.6	94.6	96.4	91.4	85.9	6.5	0.2
年齢別	15～19歳	102	87.3	83.3	97.1	89.2	63.7	2.0	-
	20～29歳	190	91.6	88.9	96.3	91.6	79.5	3.2	0.5
	30～39歳	250	92.4	93.2	97.2	90.4	84.8	6.4	0.4
	40～49歳	265	97.7	93.2	96.2	93.2	81.9	7.9	-
	50～59歳	294	96.9	91.8	95.9	88.8	<b>87.1</b>	7.1	-
	60～69歳	270	96.3	89.6	93.3	87.8	84.4	8.1	1.1
	70歳以上	153	97.4	86.3	83.7	79.7	79.7	3.9	1.3

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

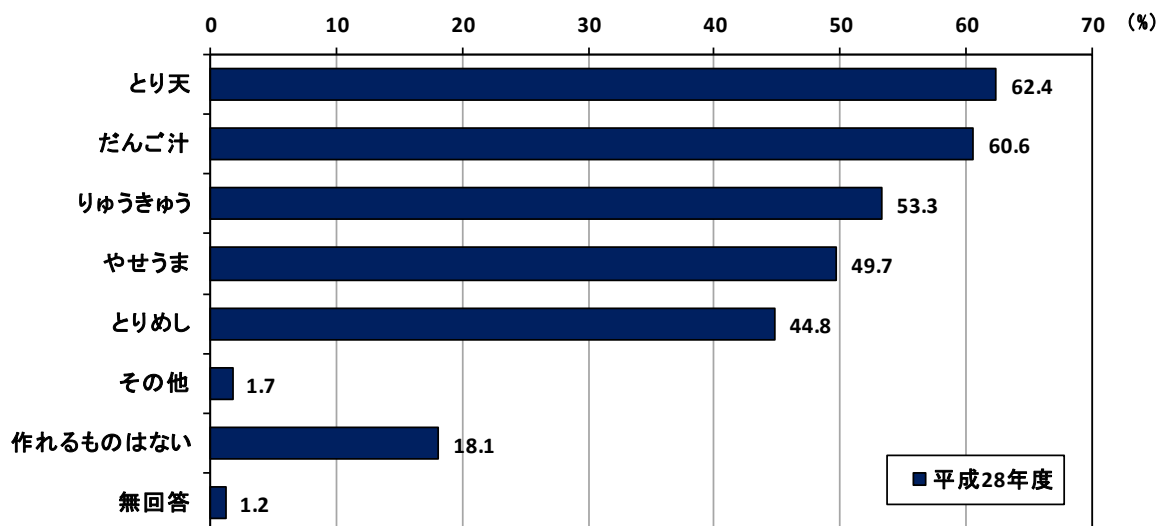
## 23 作ることのできる大分の郷土料理（問 25）

作ることができる“おおいたの郷土料理”としては、「とり天」が62.4%、「だんご汁」が60.6%、「りゅうきゅう」が53.3%、「やせうま」が49.7%、「とりめし」が44.8%となっています

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、どの料理も女性の方が圧倒的に多くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高いほど作れる料理は多くなっています。「作れるものはない」は15～19歳で40.2%、20～29歳で34.2%と多くなっています。

問25 作ることができる“おおいたの郷土料理”はどれですか。（○はいくつでも）





問25 作ることができる“おおいの郷土料理”はどれですか。(〇はいくつでも)

		サンプル数	だんご汁	やせうま	とり天	とりめし	りゅうきゅう	その他	作れるものはない	無回答
全体		1524	60.6	49.7	62.4	44.8	53.3	1.7	18.1	1.2
性別	男性	602	39.2	31.9	42.2	27.7	42.4	1.0	<b>31.6</b>	2.5
	女性	922	<b>74.6</b>	<b>61.3</b>	<b>75.6</b>	<b>56.0</b>	<b>60.4</b>	2.2	9.3	0.3
年齢別	15～19歳	102	29.4	37.3	27.5	22.5	19.6	1.0	<b>40.2</b>	1.0
	20～29歳	190	38.4	29.5	46.3	32.1	32.6	1.1	<b>34.2</b>	1.6
	30～39歳	250	51.2	41.2	58.8	37.6	52.0	0.8	20.4	-
	40～49歳	265	61.9	50.2	<b>70.6</b>	48.7	55.1	2.6	14.7	0.4
	50～59歳	294	<b>67.3</b>	54.1	<b>68.0</b>	46.6	<b>60.2</b>	1.4	15.3	1.0
	60～69歳	270	<b>77.8</b>	<b>63.3</b>	<b>74.8</b>	<b>58.1</b>	<b>65.6</b>	2.2	9.6	1.1
	70歳以上	153	<b>79.1</b>	<b>63.4</b>	64.7	<b>53.6</b>	<b>65.4</b>	2.6	5.9	4.6

(注) **太字** は全体よりも5ポイント以上多いもの（「無回答」は除く）

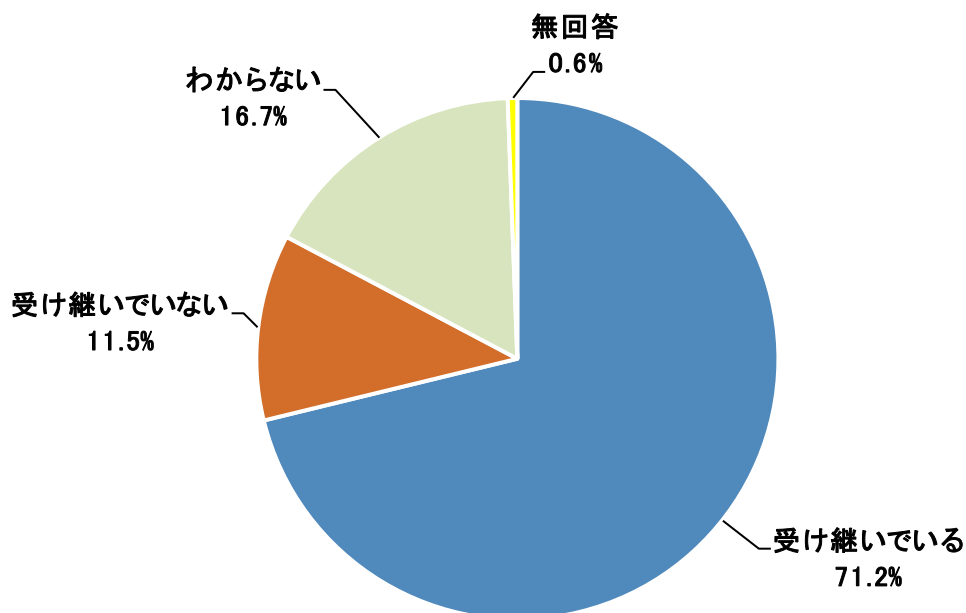
## 24 食事マナーの受け継ぎ（問 26）

箸の使い方や食事のあいさつ等の食事マナーの受け継ぎについては、「受け継いでいる」が 71.2%、「受け継いでいない」が 11.5%、「わからない」が 16.7%となっています。

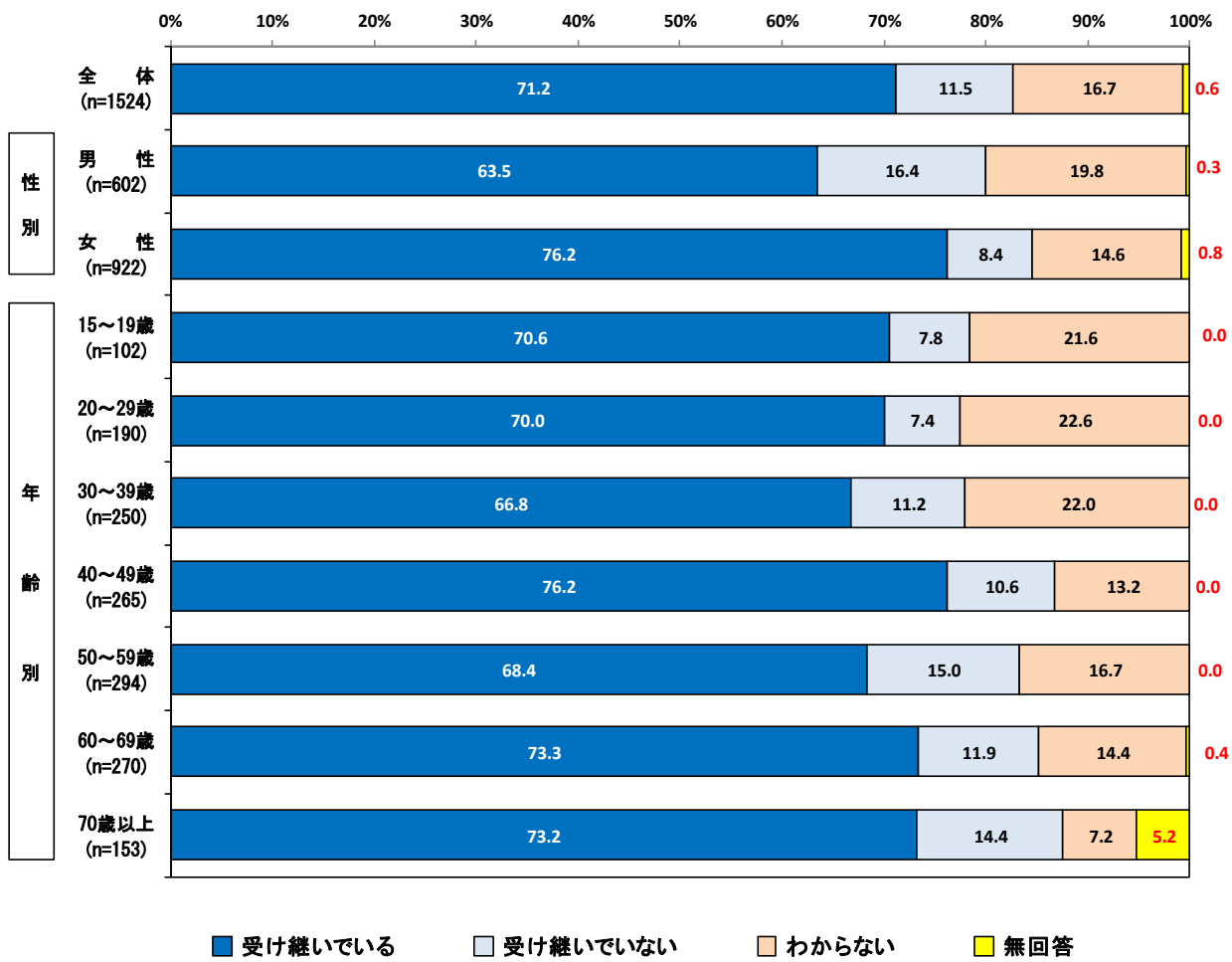
### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「受け継いでいる」は女性では 76.2%ありますが、男性では 63.5%と少なくなっています。

問 2 6 箸の使い方や食事のあいさつ等の食事マナーを受け継いでいますか。（○はひとつ）



問 2 6 箸の使い方や食事のあいさつ等の食事マナーを受け継いでいますか。(〇はひとつ)



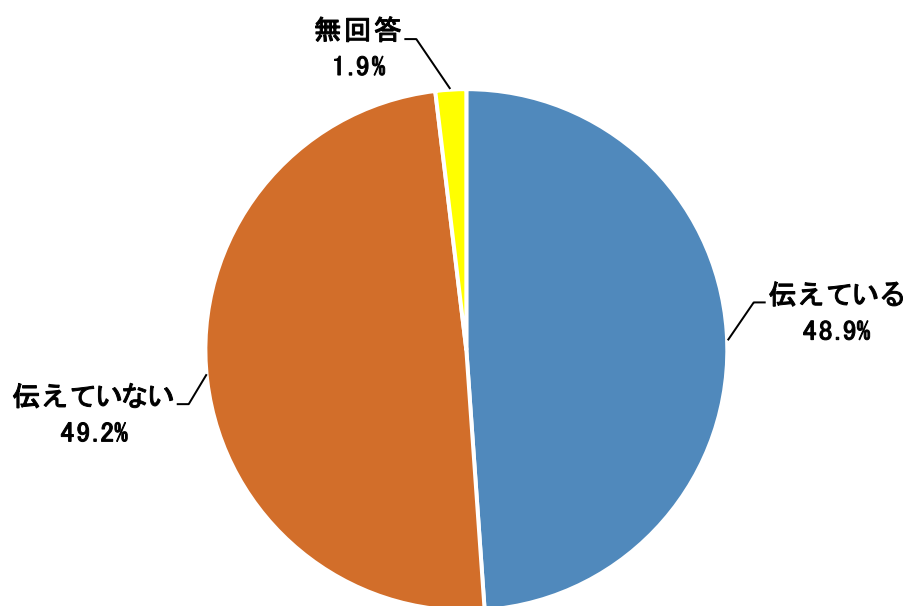
## 25 食事マナーの伝承（問 27）

箸の使い方や食事のあいさつ等の食事マナーについて、家族や周りの人（職場や地域の人等）へ伝えているかどうかをみると、「伝えている」は 48.9%、「伝えていない」は 49.2%と、半々に分かれています。

### 【属性別特徴】

- 性別にみると、「伝えている」は女性では 54.8%ですが、男性では 39.9%と少なくなっています。
- 年齢別にみると、「伝えている」が 40～49 歳で 59.2%と最も多くなっていますが、全体としては、年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。

問 27 箸の使い方や食事のあいさつ等の食事マナーについて、家族や周りの人（職場や地域の人等）へ伝えていますか。（○はひとつ）



問27 箸の使い方や食事のあいさつ等の食事マナーについて、家族や周りの人（職場や地域の人等）へ伝えていきますか。（〇はひとつ）

